

あなたの身近にいつも…アキレス

Achilles



アキレスのCSR 2016

詳細版

CONTENTS

会社概要	2
トップメッセージ	3
企業理念・CSR重要テーマ	4
暮らしの中のアキレス	5



環境のために

環境マネジメントシステム	7
地球温暖化対策	9
省エネルギー	10
3R活動と完全ゼロエミッション	11
大気汚染防止(環境負荷物質)	11
事業場別データ	12
社会との共通価値創造につながる取り組み	13



社会と共に

品質への取り組み	15
労働安全衛生・防火防災への取り組み	16
お客様と共に	18
株主様と共に	19
取引先様と共に	19
従業員と共に	20
地域社会と共に	22



マネジメントについて

コーポレートガバナンス	24
コンプライアンス	25
CSRマネジメント	26

このレポートについて

【報告書対象範囲】

アキレス株式会社および国内子会社
※範囲が異なるものについては個別に明記します

【報告対象期間】

2015年4月～2016年3月

【発行時期】

前回：2015年9月
今回：2016年9月
次回：2017年9月(予定)
※年1回発行

【編集方針】

アキレスグループは「『顧客起点』のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する」という企業理念を定め、「健康」「快適さ」「楽しさ」を感じることができる製品やサービスを提供することが、グループにとっての重要な課題であると位置づけています。また持続可能な社会の発展に貢献する活動として、「省エネルギー化」や「地球温暖化防止」にも積極的に取り組んでいます。これらの課題への対応には株主、従業員、取引先、顧客などさまざまなステークホルダーとの連携が重要であると考えています。本レポートでは、ISO-26000を活用して取り組みのチェックを行いながら、グループの主なCSR活動に関する詳細な情報をESG(環境、社会、ガバナンス)で分類し、パフォーマンスデータと共に活動報告として記載しています。

【参考にしたガイドライン・原則・技術規定】

ISO-26000(社会的責任に関する手引)
ISO-14001(環境マネジメントシステム)

CSR報告ツールについて

【詳細版】※本誌

アキレスのCSRの考え方や取り組みについて、詳細に紹介しています。

【冊子版】

事業部門や拠点ごとのCSRの取り組みを、数値や従業員の声を通して紹介します。



アキレスのCSR

検索

<http://www.achilles.jp/company/06/>

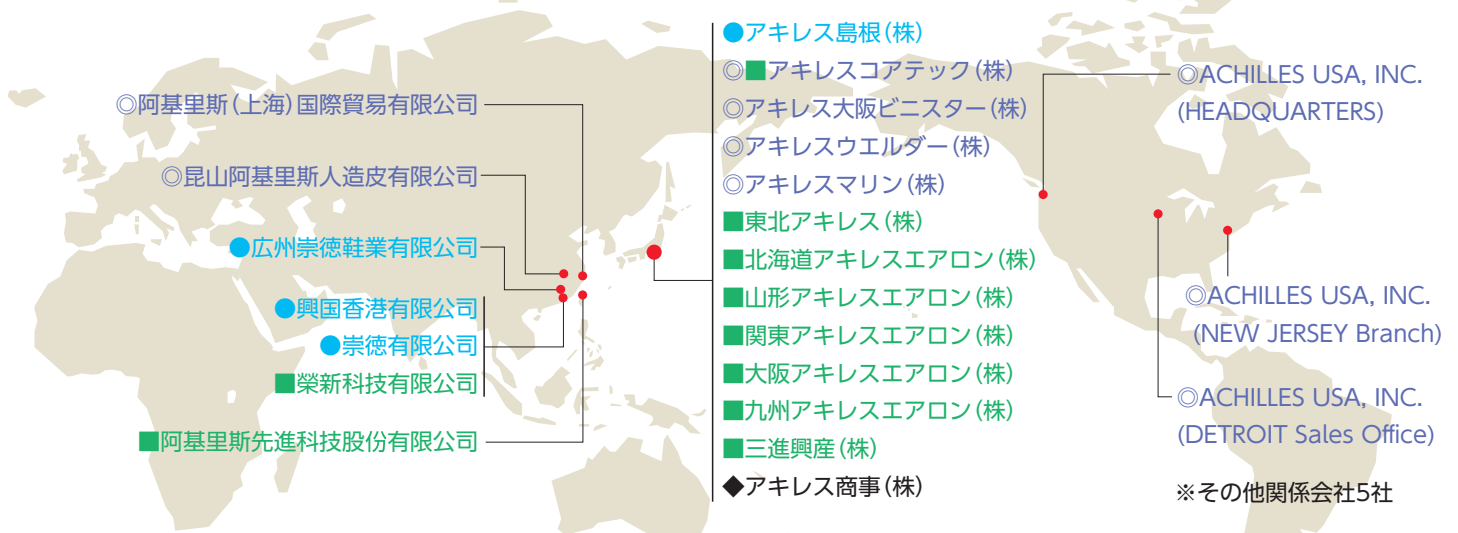
会社概要

設立 1947年 5月
 代表者 代表取締役社長 伊藤 守
 資本金 146億 4千万円
 従業員数 1,512人(国内グループ) ※2016年 3月末
 上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部)
 本社 〒169-8885 東京都新宿区北新宿 2-21-1
 新宿フロントタワー

関西支社 〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島 2-2-7
 中之島セントラルタワー
 営業所 北海道/仙台/新潟/北関東/東京/大阪/
 広島/九州
 駐在所 名古屋(ウレタン)
 工場 足利第一/足利第二/滋賀第一/滋賀第二/
 美唄/九州

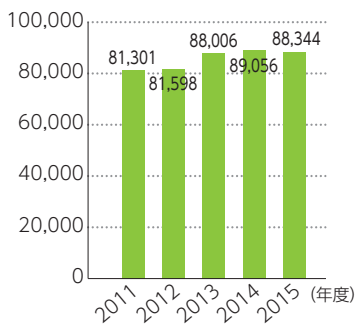
グループ会社

●…シューズ事業部門 ○…プラスチック事業部門 ■…産業資材事業部門 ◆…その他

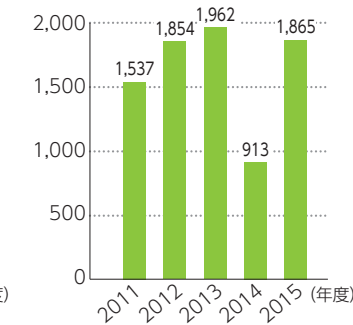


連結売上高・利益年度別推移

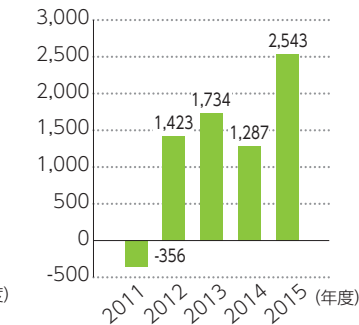
売上高(百万円)



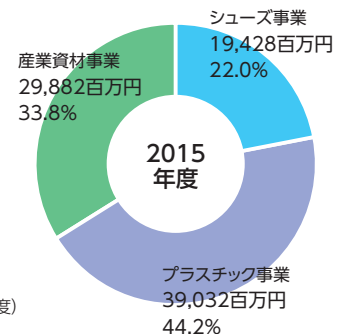
営業利益(百万円)



親会社株主に帰属する
当期純利益(百万円)



セグメント別売上高



※その他、財務情報および大株主に関する情報は有価証券報告書をご参照ください

沿革

1947年 5月	資本金2,000千円をもって興国化学工業株式会社を設立、本店を東京都中央区日本橋とし、工場を足利市に置き、ゴム製品の製造、販売を開始
1948年 4月	塩化ビニール製品の製造、販売を開始
1956年 6月	大阪市に大阪支店(現・関西支社)を開設
1957年 4月	足利市に山辺工場(現・足利第一工場)を建設
1962年 4月	ウレタン製品の製造、販売を開始
1962年 9月	東京証券取引所市場第一部上場
1963年 1月	当社独自の合成皮革(カプロン)の製造に成功、販売を開始
1965年11月	ニューヨークに現地法人アキレスK.C.I. Corp.を設立(1978年11月解散)
1969年 7月	足利第二工場を建設。車輦内装材と硬質ウレタンシェル等産業資材部門製品の製造に着手
1973年 3月	壁紙分野へ進出
1973年10月	滋賀県豊郷町に関西工場(現・滋賀第二工場)を建設、ウレタン工場稼働

1973年11月	米国ワシントン州にKOHKOKU USA, INC. (現・連結子会社ACHILLES USA, INC.)を設立
1974年 8月	北海道美唄市に美唄工場を建設、ウレタン工場稼働
1978年11月	滋賀アキレス株式会社より生産設備を譲り受け、当社滋賀第一工場として稼働
1981年 6月	アキレスマリン株式会社(現・連結子会社)を設立
1982年 2月	商号を変更しアキレス株式会社とする
1989年 1月	福岡県飯塚市に九州工場を建設
1992年 1月	中国に広州崇徳鞋業有限公司(現・連結子会社)を設立
1993年12月	中国に合弁会社昆山阿基里斯人造皮有限公司を設立
1998年12月	導電性素材「STポリ」の生産を開始
2002年10月	中国に阿基里斯(上海)国際貿易有限公司(現・連結子会社)を設立
2008年 2月	台湾に阿基里斯先進科技股份有限公司(現・連結子会社)を設立
2015年 2月	本店を現住所に移転
2015年 7月	山形アキレスエアロン(株)を設立

私たちが目指すもの、 それは、企業に社会に未来に、 新たな価値を創り続けていくことです。

アキレスのCSR活動方針は企業理念の精神です

アキレスグループは創業以来、プラスチック加工技術の向上・進化に努め、お客様の身近にある製品に独自の価値を加えて、より豊かな社会の実現に貢献してきました。「社会との共生」＝「顧客起点」を企業理念とし、お客様の声に真摯に耳を傾け、真の満足と感動を戴ける製品やサービスの提供を通じて社会に貢献することを目指しています。2016年3月期の連結業績は、原油安による原材料価格の低下の一方で、国内消費の低迷などの影響から、減収増益となりました。新たな価値を創り続け、持続的な成長を果たすために、基本に立ち返り、お客様の声に真摯に耳を傾け、顕在的・潜在的ニーズを把握し、そのニーズに迅速に応えることを徹底し、お客様の満足向上に努めます。

さらなる飛躍に向けて

2015年度より新たな中期経営計画をスタートさせました。各事業における強みを掘り下げ、用途展開や市場創造を積極的に推進し、企業価値を高めていきます。人財育成に注力し、全員参加型のイノベーションを起こしたいと考えています。アキレスのコア事業には、環境対応製品、健康支援製品があり、国内のみならず、海外市場においても、事業を通じて社会的課題の解決に貢献できる余地が十分あると考えています。

国内では、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、インフラ整備が進められていますが、発泡ウレタンの技術は、断熱材として使用すれば省エネによる温暖化対策に効果を発揮し、老朽トンネルの空洞充填材として使用すれば工事の省力化が図れます。

また、農業用の生分解性フィルムは地中の微生物で分解されるため、使用後の廃棄物処理が不要となり、農家の負担が軽減されます。ゴミの問題は農業だけではなく、さらなる用途展開が可能と考えています。これら以外にも、当社のコア技術が役立つ分野が多々あり、製品やサービスの提供を通じて、積極的に貢献していきたいと考えています。

社内において重要課題(マテリアリティ)の 特定を行いました

2015年度は会社法の改正やコーポレートガバナンス・コードの施行が始まるなど、企業のガバナンスに対する社会的要請が制度化されました。しかしながら、ガバナンス以外にも、企業が社会から要請されていることは多岐にわたっています。企業が社会や環境に与えている影響の中には、良いものもあれば、悪いものも存在します。そこでアキレスグループでは、CSR活

動をグループ内に浸透させ、より実効性を上げていくことを目指し、2015年度にISO-26000に基づき、グループ内において重要課題(マテリアリティ)の特定を行いました。今後、特定した課題について社外の客観的なご意見も確認し、各課題に対し活動目標と測定指標(KPI)を設定し、目標達成のための体制整備を進めていく予定です。

世代を超えて幸せをつなぐ確かな品質

海外のお客様から嬉しいお便りを頂戴しました。30年前に当社が販売した子ども用の長靴を、親子2代にわたり使用されているというものでした。写真も添えられていましたが、30年前の製品とは思えないほど綺麗な状態で、今もご使用されているとのことでした。長年にわたるご愛顧に感謝するとともに、世代を超えて愛されている当社製品に誇りを感じました。未来の従業員に同じ感動を届けるために、私たちは、信頼されるブランド製品の提供を続けていきます。

2016年9月



代表取締役社長

伊藤 亨

「社会との共生」 = 「顧客起点」

「顧客起点」のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する。

アキレスの CSR の基本的な考え方

私たちが目指しているもの

それは、企業に社会に未来に、新たな価値を創り続けていくことです。そして、豊かで快適な社会づくりに貢献できる会社でありたいと願っています。

私たちアキレスグループは「『顧客起点』のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する」という企業理念を定め、持続的な成長と企業価値の創造・増大に努めています。私たちを取り巻く社会環境は、世界経済のグローバル化、地球環境保全への対応、日本をはじめ世界各地で多発する自然災害の猛威など、経験したことのないようなスピードで変化しています。このような社会環境の変化のもと、豊かで快適な社会づくりに、アキレスグループはどのような貢献ができるのか、真価が問われています。

私たちは創業以来培ってきたプラスチック加工技術をさらに向上・進化させ、お客様により身近な製品、独創性のある製品をご提案してまいります。

私たちが大切にしているもの

それは、元気に育ってほしい、いつまでも元気でいてほしいという「健康」、暮らしやすい住環境にしたいという「快適さ」、使ってみて楽しいという「楽しさ」、もっと資源を大切にしたいという「省エネルギー」をキーワードに、新たな価値の増大を追求するため知恵と工夫で製品・サービスを創造し、お客様のご要望にお応えし続けたいという思いです。

豊かで快適な社会づくりに貢献できる会社であり続けるためたゆまぬ改善を重ね、全てのステークホルダーの皆様の信頼とご期待にお応えしてまいります。

アキレスの CSR 重要テーマ

2015年、アキレスではCSR活動のステップアップを図るため、ISO-26000を活用し、CSR活動の現状把握ならびに課題抽出、認識の共有を行いました。CSR関連の主要部署が集まり、7つの中核主題ごとに活動を洗い出した上で、自社にとって重要度の高い取り組みを「CSR重要テーマ」として策定しました。



暮らしの中のアキレス

シューズをはじめビニールフィルム、ビニールレザー、合成皮革、ビニール壁紙・床材、ゴム引布製品、断熱資材製品、ウレタンフォーム製品、静電気対策製品、大型RIM成形品など、アキレスの技術と製品は、さまざまなものに姿を変え、社会に貢献しています。

ILLUSTRATION : 下田信夫

シューズ事業部門

●キッズ



●メンズ・レディース



●ブーツ



プラスチック事業部門

●ビニールフィルム



●産業用機能性フィルム



●生分解性フィルム



●ビニール壁紙、ビニール床材



●車輻内装用合成皮革



●家具用合成皮革



●各種ボート



●各種エアータント



●住宅排水管用ジョイント



シューズ事業部門

・シューズ事業部

プラスチック事業部門

・車輛資材事業部 ・建築事業部
・化成事業部 ・引布販売部

産業資材事業部門

・ウレタン事業部 ・工業資材販売部
・断熱資材事業部 ・開発営業部

産業資材事業部門

● 軟質ウレタンフォーム



● ウレタンマットレス



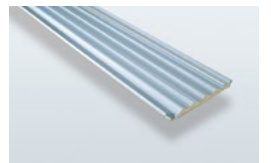
● 断熱用硬質ウレタンフォーム



● 現場発泡断熱材



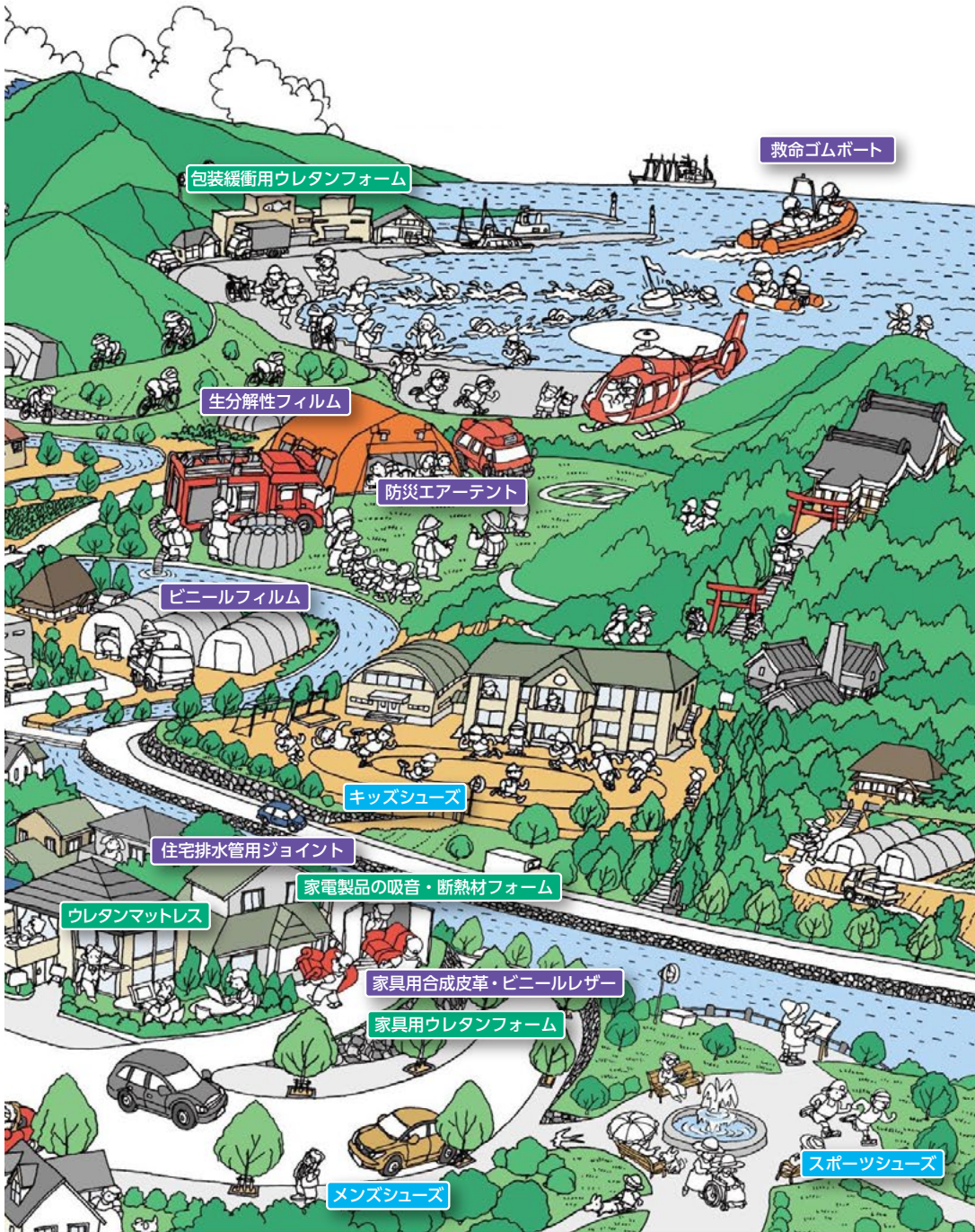
● 畜舎向け断熱屋根材



● シリコンウエハー運搬用
静電気対策ケース



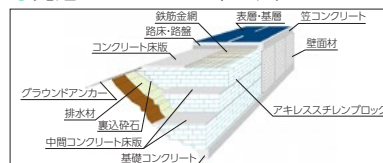
● 大型RIM成形品



● トンネル補修工法



● 発泡スチロール土木工法



環境のために

地域および地球規模の環境保全は、シューズ、ゴム、プラスチック製品といった化学原材料による製品の製造を中心に事業展開するアキレスにとって、極めて重要な使命です。当社は事業活動が環境と深く関わっていることを認識し、その事業活動の中で環境方針、環境目的・目標を定めて、環境負荷低減につながる生産工程および製品づくりに努め、持続可能な社会の発展に貢献します。

※ P.7～12で報告する数値は、ISO-14001認証取得工場の集計です

環境マネジメントシステム

環境への考え方とマネジメントシステム

アキレスグループ環境方針

アキレスグループは、「社会との共生」＝「顧客起点」の企業理念のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を続けることを基本に、シューズ、ゴム、プラスチック製品の製造、販売を主体に事業活動を推進しています。

環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動の必須の要件として、環境負荷の低減に主体的に活動するとともに、新たな価値を創り続けることで、豊かで快適な社会づくりに貢献し、高い信頼を得る企業を目指します。

1. 事業活動による環境への影響を的確に把握し、環境目的・目標を定め、その実現を図ります。
2. 環境監査等により定期的に環境管理システムを見直し、継続的改善を図るとともに、環境汚染の予防を徹底します。
3. 環境に関係する法令・条例・協定および会社方針・規則等を遵守します。
4. 事業活動を通じて、環境配慮型の商品開発、地球温暖化防止と省エネルギー、3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進を行い、健全な環境の維持・向上に努めます。
5. 事業活動が環境に与える影響を全員が認識し、適切な行動が取れるよう教育・社内広報活動に努め、環境保全への意識向上を図ります。

ISO-14001 への取り組み

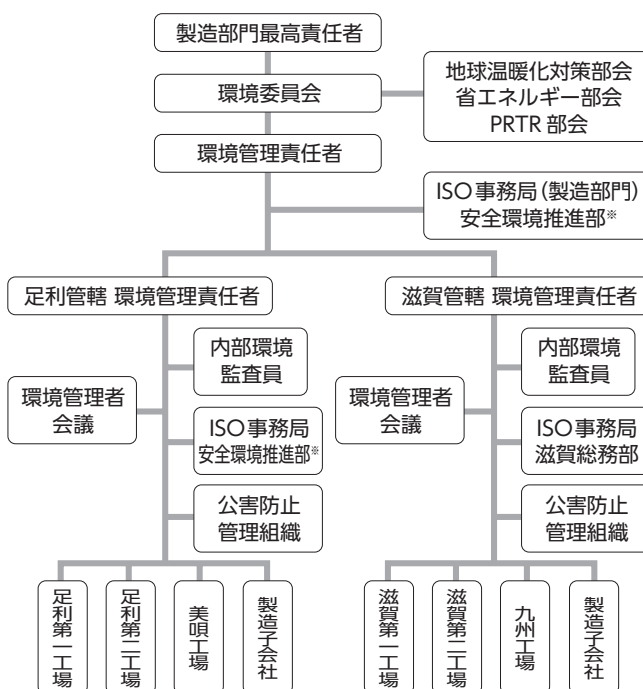
地球環境保全のため、そしてアキレスグループの体質強化のため、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO-14001をツールとして活用し、「アキレスグループ環境方針」に基づき環境側面を抽出・特定、目的・目標を設定し、継続的に環境改善活動に取り組んでいます。2015年度は5月19～21日の日程で、第5回更新審査が日本化学キューエイ(株)により行われました。

「改善の機会」1件の指摘事項があったものの、システムは維持されているとの評価でした。指摘事項については水平展開を図り、環境管理活動に反映させてレベルアップを進めました。

●ISO-14001：2004認証取得事業場 JCQA-E-0160

足利第一工場	2001年9月拡大取得
足利第二工場	2000年7月認証取得
滋賀第一工場	2002年9月拡大取得
滋賀第二工場	2002年9月拡大取得
美唄工場	2002年9月拡大取得
九州工場	2002年9月拡大取得
アキレスマリン(株)	2001年9月拡大取得
アキレスウエルダー(株)	2001年9月拡大取得
関東アキレスエアロン(株)	2001年9月拡大取得
大阪アキレスエアロン(株) 滋賀営業所	2002年9月拡大取得
北海道アキレスエアロン(株)	2002年9月拡大取得

環境管理推進組織



※2016年4月1日に、環境安全推進部から改名しました

2015 年度活動結果概要・2016 年度以降目標

項目	2015 年度目標 (中長期目標を含む)	2015 年度実績	評価	2016 年度以降目標	掲載ページ
地球温暖化防止と省エネルギーの推進	●温室効果ガス排出量を2010年度に対し、2015年度までに5%削減(2020年度までに10%削減)	●温室効果ガス排出量は、2010年度比10%削減し目標を達成しました ※2010年度排出係数採用	○	●温室効果ガス排出量を2010年度に対し、2016年度までに6%削減(2020年度までに10%削減)	P.9~10
	●エネルギー原単位を前年度比1%削減	●エネルギー原単位は、前年度比0.3%削減しましたが、目標値に達しませんでした	×	●エネルギー原単位を前年度比1%削減	
3R活動による完全ゼロエミッション	●3R活動推進を基本に、廃棄物の排出量を2010年度に対し、2015年度までに年10%削減(2020年度までに20%削減)	●廃棄物排出量は、生産構成の変化もあり、2010年度比13%増加し目標未達成となりました	×	●3R活動推進を基本に、廃棄物の排出量を2010年度に対し、2016年度までに年12%削減(2020年度までに20%削減)	P.11
	●完全ゼロエミッション(最終処分率0.1%未満)を2020年度までに達成	●最終処分率は、0.05%となり目標を達成しました	○	●完全ゼロエミッション(最終処分率0.1%未満)を2020年度までに達成	
環境負荷物質の大気汚染防止	●環境負荷物質(DMF、ジクロロメタン、トルエン、MEK、酢酸エチル)の大気排出量を2010年度に対し、2015年度までに15%削減(2020年度までに30%削減)	●環境負荷物質の大気排出量は、2010年度比16%削減し目標を達成しました	○	●環境負荷物質(DMF、ジクロロメタン、トルエン、MEK、酢酸エチル)の大気排出量を2010年度に対し、2016年度までに18%削減(2020年度までに30%削減)	P.11~12
環境管理(廃棄物削減、省エネなどの改善につながる業務の効率化と環境配慮型の商品開発)	●仕損费率削減(目標:対前年度実績20%削減)	●仕損率は、前年度比で削減はしましたが、目標未達成となりました	×	●仕損费率削減(目標:対前年度実績10%削減)	P.13~14
	●環境配慮率*の低減(目標:対前年実績以下) ※(エネルギー使用料+廃棄物処理費)÷生産金額×100	●2015年度から環境管理の指標として新たに設定した環境配慮率は、前年度比以下の目標を達成しました	○	●環境配慮率*の低減(目標:対前年実績以下)	
	●環境負荷を考慮した商品開発・研究開発の推進・上市	●生分解性フィルム、ノンハロゲンシート等環境配慮型製品の販売目標を達成しました	○	●環境負荷を考慮した商品開発・研究開発の推進・上市	
老朽化対策・工場再編に伴う環境設備の改善	—	—	—	●環境リスクの特定と対策立案(2016年度からの新たな目標)	—

環境事故などに対する是正処置

2015年度は5件の外部苦情があり、住民および行政への対応を行いました。また構内において小規模な発煙・発火事故、原材料・油膜の流出事故が発生しましたが、外部に影響を与えることなく対処しました。その後の原因追及・恒久対策について検討・実施し、設備面、管理面の両面において是正を行いました。また2015年度の各事業場の水質、大気および騒音の実績値は、全て基準値内であり問題はありませんでした。

意識啓蒙活動

環境保全活動は、従業員一人ひとりの意識と行動がなければ実施できません。

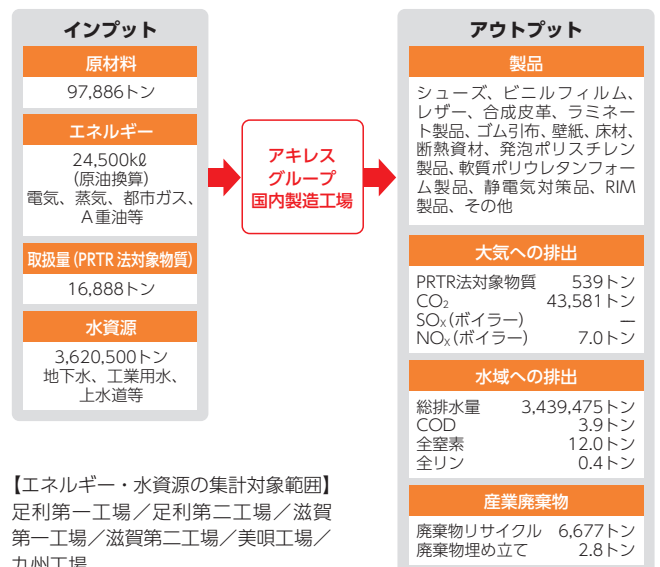
当社では、環境意識向上のため、製造部門従業員全員に当社の環境方針などを記した「環境カード」を配布し、新入社員研修、階層別研修などの社内研修において環境保全活動の重要性を周知しています。

また専門知識の必要な部署においては、さらなる環境意識と知識レベル向上に努め、専門知識資格取得にも取り組んでいます。

環境負荷の全体像

当社では事業活動に伴う物質・エネルギーのフローを定量的に把握し、会社の持続的発展に向けて、事業活動での環境負荷の低減、資源の有効活用に努めています。下記に、アキレスグループ国内製造工場の環境負荷の全体像を示します。

●マテリアルバランス



生物多様性への取り組み

生物多様性についての基本的な考え方

当社では、人間社会が生態系から恩恵を受け一方で、大きな負荷を掛けていることを認識し、生物多様性の保全に貢献する取り組みを推進しています。

日光杉並木オーナー制度

日光杉並木は、およそ370年前に植えられた杉の巨木が連なる壮大な街道です。三つの街道のうちの一つである例幣使街道が足利市を通っていることもあり、当社とも深い関わりがあります。当社は、近年の周辺環境の悪化から杉並木を保護するための「日光杉並木オーナー制度」に賛同し、保全に協力しています。



日光杉並木

水資源の保全

当社では、毎月排水の自主測定を実施し、使用後の排水を環境影響のない状態で河川へ排出しています。なお、足利第二工場、滋賀第一工場、中国昆山工場では、工業用水の一部を循環使用しています。

「水質事故被害拡大防止訓練」へ参加

当社では滋賀県ならびに湖南・甲賀環境協会などが万が一の事故発生を想定して行っている「水質事故被害拡大防止訓練」に積極的に参加し、琵琶湖を含む周辺環境保全の重要性を再認識しています。2015年9月29日に行われた訓練は、協会会員・県・市環境行政など総勢147人が参加する、大規模なものとなりました。



滋賀県でのオイルフェンスによる油のせき止め訓練

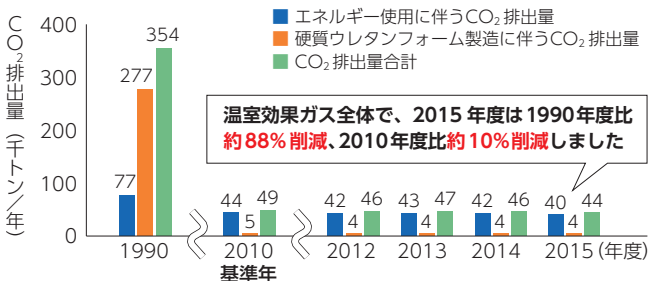
地球温暖化対策

温室効果ガス排出量推移

当社が排出する温室効果ガスとしては、エネルギー使用（燃料、電気など）に伴う二酸化炭素排出と、硬質ウレタンフォーム製造に伴う二酸化炭素排出（フロン系をCO₂に換算したもの）が主体です。

当社は現在までに継続して、積極的な環境設備投資によるエネルギー使用量の削減と、ノンフロン化への設備切り替えを進めました。この結果、温室効果ガス排出量は前年度比約4%減少し、1990年度比約88%（2010年度比約10%）削減することができ、目標を達成しました。今後は、さらなる温室効果ガス排出量の削減を推進していきます。

●温室効果ガス（CO₂）排出量の年度別推移



※エネルギー使用に伴うCO₂排出量は、事業活動に関わるエネルギー（燃料、電気など）に伴い発生するCO₂です。またCO₂排出量は、地球温暖化対策推進法（改正温対法：2006年4月施行）に基づく算出方法・排出係数一覧から算出したものです。なお東日本大震災以降、原発停止により天然ガス（火力発電）使用が増え、電気事業者の排出係数が大幅に大きくなったことから、2010年度以降は2010年度の排出係数で算出しています

※硬質ウレタンフォーム製造に伴うCO₂排出量は、原液製造時および発泡時に漏洩するフロン系をCO₂換算したものです。またフロン系の地球温暖化係数（CO₂換算係数）は、IPCCの3次レポートから準用し、自主的に算出したものです

【対象範囲】足利第一工場/足利第二工場/滋賀第一工場/滋賀第二工場/美眼工場/九州工場/アキレスマリン(株)/アキレスウエルダー(株)

物流の環境保全活動

二酸化炭素削減活動の取り組み

2015年度の取り組みとして、モーダルシフトの拡大展開、および積載率・大型車利用率の向上を推進しました。また輸送の効率化とコスト低減を目的として、滋賀工場と連携して関東⇄関西の輸送車輛の有効活用を推進し、継続実施中です。



鉄道輸送用のコンテナへの積み込み

二酸化炭素排出量実績

上記の取り組みの結果、2015年度は、前年度に対し輸送トンキロ^{*1}が1.1%減少したこと、およびモーダルシフト率^{*2}が向上したことなどにより、CO₂排出量^{*3}が3.1%減となりました。

※1 輸送トンキロ=貨物重量[トン]×輸送距離[キロメートル]

※2 貨物輸送をトラックから鉄道や船に変えること。一度に大量の貨物を輸送することができ、CO₂排出量を抑える効果が期待されています

※3 CO₂排出量(t-CO₂)=エネルギー使用量(GJ)×排出係数(経済産業省より)

●二酸化炭素排出量・モーダルシフト率

項目(単位)	2014年度	2015年度	前年度比(差)
輸送トンキロ (千トンキロ)	74,421	73,570	98.9%
発生するCO ₂ の 排出量 (t-CO ₂)	10,161	9,847	96.9%
モーダルシフト率	15.3%	16.8%	1.5ポイント向上

省エネルギー

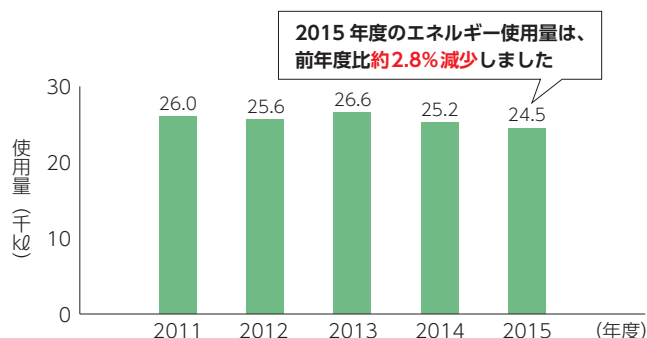
省エネルギー活動

当社では、1979年の省エネルギー法の制定に伴い足利第一工場がエネルギー管理指定工場となったことをきっかけに、省エネルギーの活動を本格的に開始しました。2009年5月にはエネルギー使用の合理化をより一層推進することを目的に省エネルギー法が改正され、エネルギー管理が工場・事業場ごとから企業全体に変わりました。当社は省エネルギーの重要性をさらに認識し、省エネルギー活動を環境負荷軽減の一環として位置づけ、全社を挙げ取り組んでいます。

エネルギー使用量(原油換算)

2015年度エネルギー使用量は、主なエネルギーである電気と燃料の使用量を低減することを目的に取り組んだことから、前年度に対して約2.8% (0.7千kℓ/年) 減少しました。

●エネルギー使用量(原油換算)の年度別推移



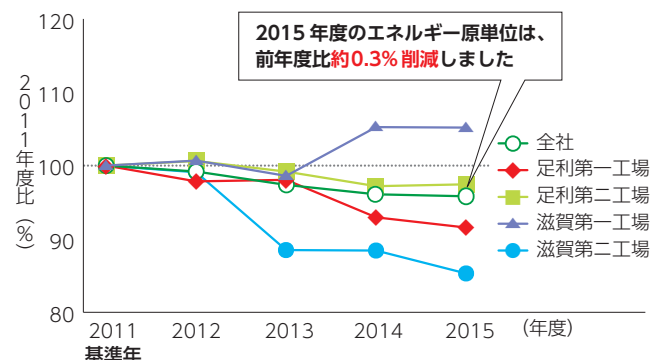
エネルギー原単位

2015年度は、目標の「2014年度使用実績に対し、2015年度はエネルギー原単位1%削減」に向けて活動し、エネルギー原単位では前年度比約0.3%削減しました。

具体的には、貫流ボイラー更新や配管・バルブなどの保温強化、各装置のインバーター化や高効率化機器への更新、エア圧力・温調温度の適正化、照明(水銀灯・蛍光灯)のLED化などの省エネルギー改善に取り組みましたが、目標値には達しませんでした。今後も対策を継続し、目標である前年度比エネルギー原単位1%削減を推進していきます。

【対象範囲】足利第一工場/足利第二工場/滋賀第一工場/滋賀第二工場/美唄工場/九州工場

●全社および管理指定工場ごとのエネルギー原単位の年度別推移



設備の改造・導入による使用エネルギー削減

2015年度は前述の前年度比エネルギー原単位1%削減を目標に、設備の導入・改造などを図りました。

●設備の改造・導入の主な内容と使用エネルギー削減効果(原油換算値)

内容	削減効果 (kℓ/年)
貫流ボイラー更新による省エネ	90
配管・バルブなどの保温強化、蒸気漏れ防止	40
LED照明・Hf蛍光灯の採用	30
トップランナー空調設備への更新	30
コンプレッサーの更新、エアリーク防止	20
変電所での高効率変圧器への更新	20
その他(ポンプ・モーターのINV化など)	140
合計	370

太陽光発電によるエネルギー創生

2015年度の太陽光発電設備による発電電力量は、2012年度の初回設備導入以後2回の設備増設を経て、1,868kwhになりました。

なお、CO₂排出量の削減効果は733tとなり、2015年度のエネルギー使用によるCO₂排出量の1.8%に相当します。

●太陽光発電設備

	設備容量 (kW)	発電電力量 (千kWh/年)	CO ₂ 削減量* (t-CO ₂ /年)
足利第二工場	529	653	212
滋賀第二工場	1,006	1,215	521
合計	1,535	1,868	733

*足利第二工場は東京電力、滋賀第二工場はエネットの電気事業者排出係数(2010年)を使用



足利第二工場(2012年設置)

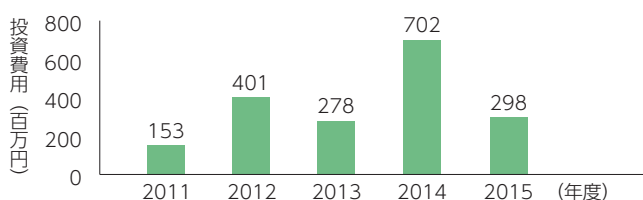
足利第二工場(2014年設置)



滋賀第二工場(2012年設置)

滋賀第二工場(2014年設置)

年度別環境関連設備投資費用(過去5年間)



3R 活動と完全ゼロエミッション

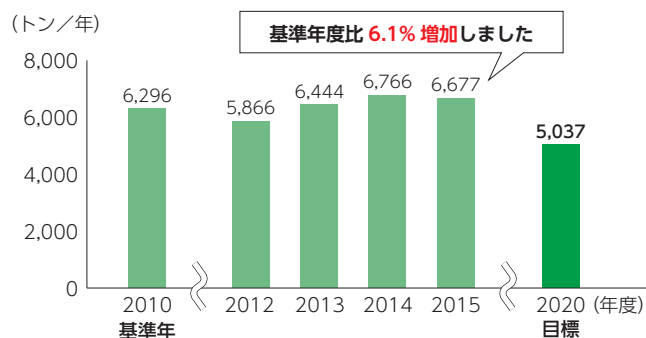
廃棄物の削減に向けて

循環型社会の実現を目指して、3R*活動を推進し環境負荷の低減を図る取り組みを、ISO-14001の環境管理活動の中で進めています。特に廃棄物の発生量自体の削減を目指す発生源対策（リデュース）を重視し根本原因を追及、廃棄物の発生抑制に注力しています。

*廃棄物の発生抑制（リデュース）、部品などの再利用（リユース）、使用済み製品などとしての再利用（リサイクル）

廃棄物等削減活動結果

●廃棄物等総排出量



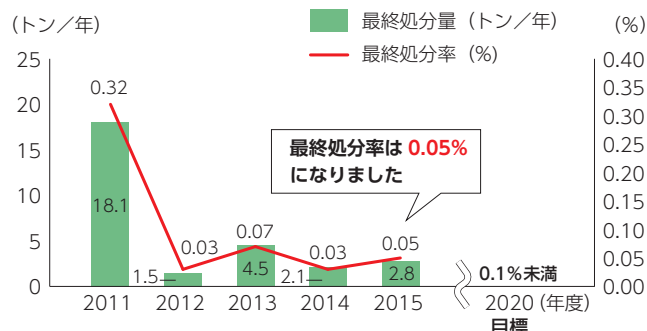
2015年度の廃棄物等*総排出量は、基準年度（2010年度）比で381トン増加となり、2015年度の目標「廃棄物の排出量を2010年度に対し、2015年度までに10%削減」については未達という結果となりました。生産量の増加や生産構成の変化が原因と考えられますが、今後は分別・選別の徹底やリサイクルシ

ステム（特にリデュース、リサイクル）導入、既存のリサイクルフローの見直しなどを展開し、生産量の増加に対しいかにして廃棄物発生量を抑制するかを課題としていきます。

*廃棄物等は、産業廃棄物と再資源化物を含む

最終処分量状況

●最終処分量および最終処分率



アキレスグループ環境目的・目標である「完全ゼロエミッション（最終処分率*0.1%未満）を2020年度までに達成」を目指して活動を行った結果、2015年度最終処分量は約2.8トンで、最終処分率は0.05%となり、2014年度の0.03%に引き続き、完全ゼロエミッションを達成しました。

今後は、完全ゼロエミッションの確立を目指し、分別・選別のさらなる徹底およびリサイクルに取り組んでいきます。

*最終処分率 (%) = 最終処分量 / 総排出量 × 100

大気汚染防止 (環境負荷物質)

環境負荷物質の大気放出削減

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR*¹法）」に則り、毎年第一種指定化学物質の排出量・移動量の実績を監督官庁に報告しています。大気汚染防止の取り組みとして、PRTR法対象物質およびPRTR法対象物質以外のVOC**²物質の中で特に大気への排出量の多い5物質（DMF、ジクロロメタン、トルエン、MEK、酢酸エチル）を「環境負荷物質」として、アキレスグループ環境目的・目標「環境負荷物質の大気汚染防止」の対象とし、全製造部門で大気排出量の削減を推進しています。

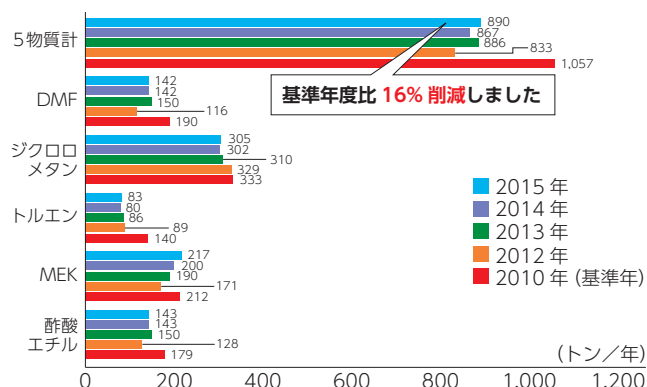
*1 Pollutant Release and Transfer Register：有害性のある多種多様な化学物質が、どこから、どのくらい、環境中に排出されたか、廃棄物として移動したかを把握し、集計・公表する仕組み

*2 Volatile Organic Compounds：揮発性有機化合物の略称。空气中に揮発する性質のある有機化合物

環境負荷物質の大気排出量結果

2015年度の環境負荷物質を集計した結果、それぞれの大気排出量は2010年度に対し、DMFが25%減、ジクロロメタンが8%減、トルエンが41%減、MEKが2%増、酢酸エチルが20%減となりました。環境負荷物質全体では16%削減し、2010年度に対し15%削減する2015年度目標を達成しました。

●環境負荷物質の大気排出量



大気排出量削減計画

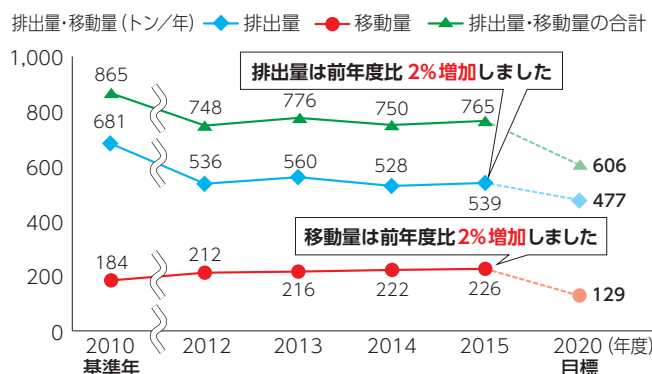
アキレスグループは「環境負荷物質の大気汚染防止」を全製造部門の共通テーマとしています。中長期目標としては「環境負荷物質の大気排出量を2010年度に対し、2020年度までに30%削減」を掲げ、労働安全衛生法、PRTR法および大気汚染防止法に基づき、大気排出量を計画的に管理・削減し、大気汚染防止に取り組んでいます。具体的には、VOC物質から非VOC物質の代替物質への移行などにより、大気排出量の削減を進めています。

PRTR 第一種指定化学物質削減活動結果

PRTR法に則り、該当物質の排出量などを把握した結果、2015年度のPRTR第一種指定化学物質の排出量は539トン/年、移動量は226トン/年となりました。

前年度に対しては、排出量は2% (11トン/年)、移動量では2% (4トン/年) 増加。各事業場の主な対象物質ごとの排出量・移動量は「事業場別データ」の通りです。

●PRTR対象化学物質の排出量・移動量



事業場別データ (2015年4月~2016年3月)

●PRTRデータ

PRTR 法対象 第一種指定化学物質名	足利第一工場			足利第二工場			美唄工場			アキレスマリン(株)		
	排出量		廃棄物	排出量		移動量	排出量		移動量	排出量		移動量
	大気	水域		大気	水域		大気	水域		大気	水域	
キシレン	0.42	0.00	0.02	3.10	0.00	0.17	-	-	-	-	-	-
ジクロロメタン(塩化メチレン)	140.00	0.00	4.10	4.60	0.00	0.23	13.00	0.00	0.96	-	-	-
N,N-ジメチルホルムアミド(DMF)	140.00	0.86	4.80	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トルエン	72.00	0.00	4.00	7.40	0.00	4.00	-	-	-	2.80	0.00	0.00
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	0.88	0.00	23.00	0.61	0.00	96.00	-	-	-	-	-	-

PRTR 法対象 第一種指定化学物質名	滋賀第一工場			滋賀第二工場			九州工場				
	排出量		廃棄物	排出量		移動量	排出量		移動量		
	大気	水域		大気	水域		大気	水域			
キシレン	0.35	0.00	0.00	-	-	-	-	-	-	-	-
ジクロロメタン(塩化メチレン)	-	-	-	148.00	0.00	6.90	0.28	0.00	0.00	-	-
トリレンジイソシアネート	-	-	-	0.08	0.00	0.00	-	-	-	-	-
トルエン	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-	-	-	-	-
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	0.72	0.00	72.00	-	-	-	-	-	-	-	-
ポリ(オキシエチレン)ノニルフェニルエーテル	-	-	-	-	-	0.05	0.00	0.00	0.01	-	-

PRTR法該当物質：2015年度の年間取扱量1トン以上の第一種指定化学物質のうち、排出量・移動量が多い上位物質のみ掲載(単位：トン/年)
横線の物質は報告対象外(取扱量1トン/年未満)

●水質

測定項目	単位	基準値	足利第一工場		足利第二工場 No.1*		足利第二工場 No.2*		基準値	滋賀第一工場 No.1*		滋賀第一工場 No.2*		基準値	滋賀第二工場	
			7.2	7.4	7.2	6.0~8.5	7.6	7.6		6.0~8.5	7.9					
水素イオン濃度(PH)	PH	5.8~8.6	7.2	7.4	7.2	6.0~8.5	7.6	7.6	6.0~8.5	7.9						
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/ℓ	25	1.6	2.7	1.8	25	2.3	1.2	30	1.4						
浮遊物質(SS)	mg/ℓ	50	1.5	3.0	1.8	25	4.8	1.7	70	2.4						
ノルマルヘキサン抽出物質含有量	mg/ℓ	5	0.5未満	0.5未満	0.5未満	5	0.5未満	0.5未満	5	0.5未満						
窒素含有量(T-N)	mg/ℓ	120	3.4	4.0	3.8	12	0.5	0.5	12	2.5						
リン含有量(T-P)	mg/ℓ	16	0.1未満	0.1未満	0.1未満	1.2	0.05未満	0.7	1.2	0.05未満						

※水質は、足利第二工場は2カ所、滋賀第一工場は2カ所で測定されたものです
※基準値は各事業場所在地の条例によるものです

●大気

測定項目	単位	基準値	足利第一工場		滋賀第一工場	
			7	-	17.5	-
SOx(ボイラー)	K値規制	7	-	17.5	-	
NOx(ボイラー)	ppm	150	27	150	65	

都市ガス使用のため、SOxの排出なし

社会との共通価値創造につながる取り組み

環境配慮型商品の開発

当社では、環境負荷低減につながるライフサイクルの長い製品や、エネルギー効率の高い製品・サービスを開発しています。断熱効果が高い脱フロン製品や生分解性樹脂を使用したフィルム、シリコンウエハーケースの洗浄再利用などの製品・サービスを通して、環境負荷低減に貢献しています。

2015年度は、新たに開発した環境配慮型製品の販売を開始しました。

優れた断熱性で高い省エネ効果を有する

「アキレスエアロンFR-FO」

2015年6月1日から全国で販売を開始した「アキレスエアロンFR-FO」は、地球温暖化係数(GWP)の低いノンフロン新発泡剤HFO(ハイドロフルオロオレフィン HFO-1233zd)を用いた「建築物断熱用吹き付け硬質ウレタンフォーム」です。

●アキレスエアロンFR-FOの特徴

新発泡剤を使用することで地球環境に優しく、HFC(ハイドロフルオロカーボン)と同等の熱伝導率(0.026W/m・k)を実現しました。従来のノンフロンタイプと比較して断熱厚みが軽減され、室内空間に余裕ができます。

新発泡剤HFOは、フッ素化合物ですが、フロン類とは区別されており、しかも、ODP(オゾン層破壊係数)=0、かつ、GWP(地球温暖化係数)=1のため、環境への負荷が少ない発泡剤です。



アキレスエアロンFR-FO
吹き付け施工イメージ

「健康&省エネ対策」製品

当社では、シックハウス症候群の主な原因物質であるホルムアルデヒドを吸収分解する性能を付加した石膏ボードと、高い断熱性を発揮する硬質ウレタンフォームの複合製品「アキレスHCパネル」を発売しました。これは、優れた断熱性能と併せて、室内に残留するホルムアルデヒド濃度を低減する効果があり、健康への配慮と省エネルギー化に貢献する製品です。



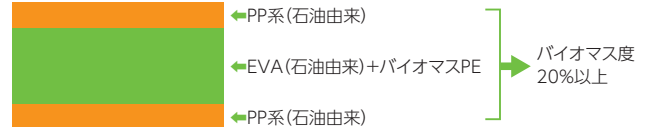
HCパネル施工イメージ HCパネル

環境配慮型POフィルム「アキレスPOViC[®]*1」シリーズ

●再生軟質POフィルム「アキレスPOViC-BR」

アキレスの配合技術および多層製膜技術と植物由来の原材料を組み合わせた新しいバイオマス系フィルムです。バイオマスマーク^{※2}を取得し、グリーン購入法^{※3}にも適合している透明性のあるフィルム製品です。

2種3層



POViC-BR断面構造イメージ



●再生梨地軟質POフィルム「アキレスPOViC-MR」

原材料の一部に、リサイクル非塩素系素材を使用したエコマーク^{※4}認定の梨地フィルムです。グリーン購入法にも適合しています。



アキレスPOViC-MR



●再生透明軟質POフィルム「アキレスPOViC-TR」

(グリーン購入法適合)


透明性があり、グリーン購入法に適合した軟質ポリオレフィンフィルムです。





アキレスPOViC-TR



※1 軟質PVC(ポリ塩化ビニル)フィルムとPO(ポリオレフィン)フィルムの特徴を融合させた非塩素(非ハロゲン)系の汎用ポリオレフィンフィルムです

※2  地球温暖化防止の観点から「バイオマス・ニッポン総合戦略」の普及啓発事業の一環として生まれたマークです。生物由来の資源(バイオマス)を利活用し、品質および安全性が関連法規、基準、規格などに合っている商品を農林水産省、環境省を主務官庁とする一般社団法人 日本有機資源協会が認定しています(当製品の取得No.130004)

※3  2001年に施行された「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」の略称です。国や地方公共団体などが環境に配慮した製品を率先して購入することや、国民への情報提供の義務づけを定め、循環型社会の形成を推進することを目的としています

※4  消費者が環境を意識した商品を選ぶ目安として活用することを目的とし、1989年に環境省所管の公益財団法人 日本環境協会によって制定されたマーク。カテゴリーごとに定められた基準を満たし、環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認定された商品・サービスに付けられています

健康経営につながる取り組み

急速な高齢化に伴う医療費増大が深刻化している日本社会において、従業員の心と身体の健康を増進させる取り組みは、企業の社会的責任の一つです。併せて、人口減少問題は市場縮小や労働力不足など深刻な課題を企業に与えています。その解決策の一つとして注目されているダイバーシティへの取り組みは、アキレスグループにおいても重要と位置づけています。

「チーム峯岸」との取り組み

当社は、2016年1月より、車椅子競技で活躍しているアスリートを、ヨガを取り入れたトレーニング方法で、心と身体づくりの両面から支援している峯岸道子氏とアドバイザー契約を結びました。障がいを持つ選手たちの頑張りが、障がいを持つ全ての方に希望を与える、そこに携わることの喜びをいつも熱く語ってくださる峯岸氏に、当社は感銘を受けました。

峯岸氏の活動を通じて、障がいを持つアスリートの皆さんを応援することと併せて、当社の従業員に対しても、心と身体の健康づくりに役立つ指導を行っていただき、健康経営の一助にしたいと期待しています。



チーム峯岸
トレーニング風景(神奈川県)

環境配慮につながる取り組み

当社では、社内で共通する身近な現状業務を見直し、効率化を図ることで経費削減および品質向上などにつなげることを目的に静の5S[※]として、「AMT(アキレス・ムダ・取り)活動」を推進してきました。全社的に定着が進みましましたので、次のステップとして、作業方法、原材料、製品にいたるまでを動の5Sとして、生産革新を推進しています。これらの活動を通して、省資源化や省エネルギーにも貢献しています。

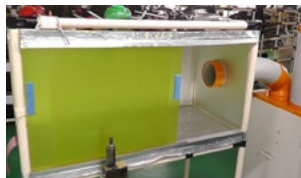
※整理・清掃・整頓・清潔・躰

省エネルギー化につながる設備改善

シューズ製品をイレクターで作製した冷却設備に一定時間保管する業務において、従来は冷却設備に製品を入れやすいようにカーテン式のフィルムを取り付けていましたが、フィルムの経時劣化により、次第に冷気が漏れるようになってしまいました。このフィルムをポリカーボネート板で作ったスライド式扉に替えたことで、製品の入れやすさはそのままに、冷気の漏れを防止し、エネルギー効率の向上を図りました。このような細かな改善を積み重ね、省エネルギー化に努めています。



改善前



改善後

社会課題解決型商品の開発

当社では商品開発を通して、さまざまな社会課題解決に貢献しています。老朽インフラの保守整備に関する商品・サービスや、救命および防災に貢献するボートやテント、健康に配慮した寝具やシューズなど、さまざまな商品の開発を行っています。

「レスキューボート ナビカーゴNC-330」が「JIDA DESIGN MUSEUM SELECTION」に認定

各地の水害や津波災害の救助現場で求められるハードな要求に応える救助用ボートとして開発されたたいへんユニークな製品として、「レスキューボート ナビカーゴNC-330」が「JIDA DESIGN MUSEUM SELECTION VOL.17」^{*}に選定されました。

●ナビカーゴNC-330の特徴

「瓦礫に対する強度」「水深の浅い場所での救助活動に適した設計」「救助時の船体の安定性確保」など、東日本大震災で救助活動に参加された消防隊員の皆様の声に応えた製品です。

瓦礫との接触で船底などが破損しないよう、FRP船体を組み合わせ、また、水深が浅い場所でも救助活動が行いやすいよう、船底を平らにして水中への船体の沈み込み量を軽減しました。また、船体の周りに浮力体入りチューブを配置し、被救助者がボートに乗り込む際に起きる船体の傾きを抑え、安定性を向上させました。

ナビカーゴの最大の特徴は、FRP船体自体が、チーブやライフジャケットを収納するBOXの役割を果たすよう設計されている点です。また、船検・船舶免許が不要な2馬力船外機の装着が可能です。



レスキューボート
ナビカーゴNC-330

※JIDA(公益社団法人日本インダストリアルデザイナー協会)は、毎年、「可能な限り製品を現物保存し、将来のデザイン文化育成に資する」ことを目的に、「JIDA DESIGN MUSEUM SELECTION」事業を展開しています。公募型のデザイン賞とは異なり、セクションの選定に際しては、JIDA会員からの推薦に基づき、デザインに携わるデザイナー自身の目によって選定される、より深いデザインマインドに基づいた制度です

社会と共に

アキレスグループは製品やサービスを通じて、より豊かで快適な社会づくりに貢献することを目指しています。またさまざまなステークホルダーとの対話を通して取り組むべき課題を特定し、その対応に努めることで、社会の持続的発展に貢献したいと考えています。そして「アキレス調達基本方針」を定め、法令遵守や人権尊重などを含む企業の社会的責任 (CSR) への取り組みをサプライチェーンに広める努力を行っています。

品質への取り組み

品質への考え方とマネジメントシステム

アキレスグループでは、「製品の安全性と品質の確保」を全従業員が徹底するよう、「アキレス行動指針」を定めています。またお客様のニーズや市場動向を的確に捉え、お客様に満足していただける製品・サービスを提供する仕組みの基準として、全事業部で品質マネジメントシステムの国際規格 (ISO-9001) を取得し運用しています。そして「品質保証規定」で、各事業部の事業部長が品質保証の責任者として品質目標を設定し、安全で安心な製品・サービスの提供に努めることを定めています。また品質保証本部は、各事業部の製品企画・開発、生産、販売の各プロセスにおいて、適宜適切な提案を行い、品質保証体制の維持・向上に努めています。

品質基本方針

当社は、「社会との共生」=「顧客起点」の企業理念に基づき、顧客や消費者の立場に立って顧客満足を得られる製品を提供すると共に、製品の安全性確保や関連する法令等を遵守し、社会的責任を果たす為に下記の基本方針を定めます。

1. 全員が市場の声に耳を傾け、顧客のニーズに応えた魅力ある製品・サービスを提供する。【顧客満足の向上】
2. 使用時の安全性確保は製品の品質保証の中でも重要な事項である事を認識し、製品の設計、製造、販売など全工程にわたって製品安全の確保に努める。

【製品安全の確保】

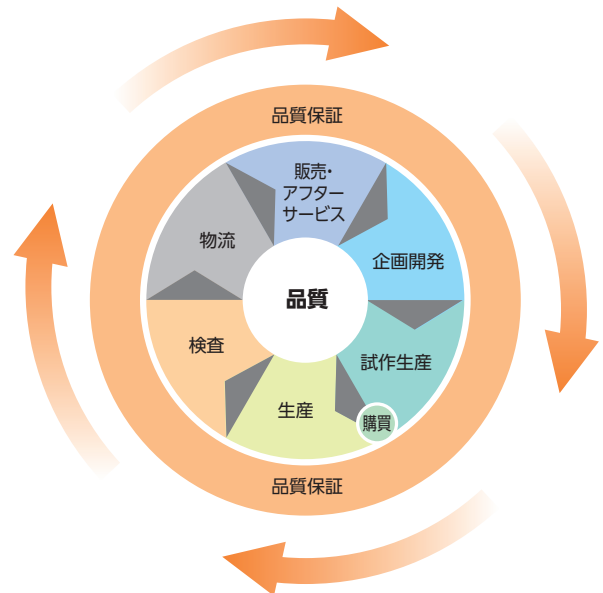
3. 製品に係わる法令及び当社が同意した規格、顧客基準を遵守する。【法令遵守】
4. 環境負荷低減に配慮した製品の設計、製造、販売活動を行う。【環境への配慮】
5. これらの活動を効果的・効率的に行うために業務を見直し、継続的な改善を進める。【継続的改善】

●ISO-9001：2008認証取得状況

登録組織名	取得年月	登録番号
アキレス(株)シューズ部門	2007年10月	JCQA-1663
アキレス(株)プラスチック部門	2003年 4月	JCQA-1251
アキレス(株)産業資材部門	2004年 2月	JCQA-1367
ACHILLES USA, INC.	1998年 4月	33354
三進興産(株)上尾工場	2006年 9月	JQA-QMA12936

品質保証の仕組み

当社の品質保証本部は、各事業部の製品企画・開発、生産、販売の各プロセスにおいて、適宜適切な提案を行い、品質保証体制の維持・向上に努めています。



企画・開発

- お客様からのご要望および安全・安心を考慮した製品設計を検討しています。
- 素材および使用材料の安全性の検証をしています(使用禁止・制限化学物質、および健康に影響を与える物質を含まないことを確認)。
- 製品の加工時、施工時、および使用時を想定した要求物性への適合試験を実施しています。
- プロセスごとに品質保証部を交えたデザインレビューを実施しています。

購買

- 企画・開発、製造部門と連携し、使用する材料の安全性、環境性、および調達先の品質保証体制などを調査した後、購買品を選定しています。
- 調達先には「アキレス調達基本方針」の遵守を促すことで、企業の社会的責任（CSR）への取り組みをサプライチェーンに広めています。また調達活動においていかなる違反行為にも加担しません。

生産

- 製品ごとに生産ラインに適した工程管理と検査方法を定め、効率生産と品質安定化を推進しています。
- 地球環境への負荷低減を図るため、地球温暖化防止と省エネルギー、3R（リデュース、リユース、リサイクル）活動や大気汚染防止などを推進しています。

- 製品の品質向上および技能レベル向上を目的に、全ての従業員に対し教育指導を実施しています。
- プロセスごとに品質保証部を交えたデザインレビューを実施しています。

販売・アフターサービス

- お客様からの当社製品・サービスへのご相談やお問い合わせは、販売担当部署でお受けする以外に「お客様相談室」でもお受けしています。いずれの窓口でも、お客様のお声に耳を傾け、迅速に対応するように努めています。
- 想定外の重大問題が予想される場合は、お客様の安全を第一に考え、情報開示と迅速な対応を行います。
- 環境対応設計製品に関しましては、お客様が類似他品との環境効果を容易に比較できるように努めています。

労働安全衛生・防火防災への取り組み

労働安全衛生の考え方とマネジメントシステム

アキレスグループ安全衛生方針

「安全の誓い」にうたわれている、「健康にして、安全の確立こそ、会社発展の源であり、私たちの明日への生活向上の基盤であります。私たちは、安全を確保し、人の和を築き、私たちの明日への活力を生み出すことを日々心新たに誓います。」のように、安全と健康の確保は事業活動の基本であり、安全で働きやすい職場環境を確保するために、次の事項を実施します。

1. 安全は全ての基本であり、アキレスグループ従業員一人ひとり、安全を全てに優先します。
2. 安全と心身の健康確保のため、全員参加で、安全衛生活動を積極的に推進します。
3. 安全衛生に関係する法令および会社方針・規則等を遵守します。
4. 安全衛生水準向上のため、労働安全衛生マネジメントシステム等を適切に活用し、継続的改善を図ります。
5. 日ごろより、5S（整理・清掃・整頓・清潔・躰）を欠かさず、安全で衛生的な職場環境を維持します。
6. 全ての従業員に対して、安全衛生の重要性を周知し、必要な教育・訓練を実施します。

主な安全衛生管理活動

安全衛生

当社では、各事業場で安全衛生委員会を開催し、従業員へは法・指針に基づいた安全衛生教育の実施、法に基づく各種有資格者の養成など、安全衛生体制を確立しています。また、作業・設備のリスクアセスメントを実施し、結果に基づく改善を行い、本質安全化を図っています。



フォークリフト運転業務従事者
安全衛生教育（足利工場）

●安全衛生委員会委員割合

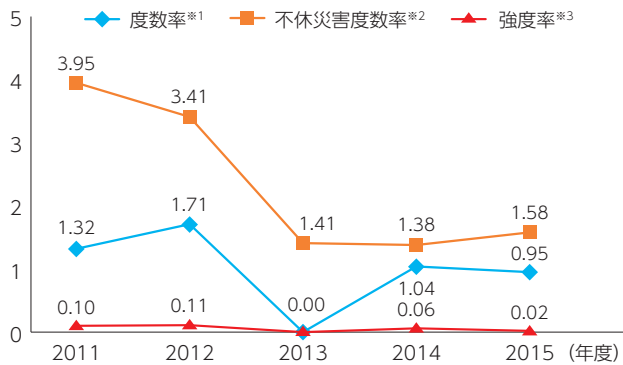
事業場	安全衛生委員 （人）	従業員数 （人）	従業員に対する 安全衛生委員 の割合（%）
本社	12	257	4.7
関西支社	6	59	10.2
北関東営業所 およびシューズ 物流センター 東日本物流課	8	91	8.8
足利第一工場	19	570	3.3
足利第二工場	16	271	5.9
滋賀第一工場	12	95	12.6
滋賀第二工場	14	113	12.4
合計	87	1,456	6.0

※2016年3月31日時点

労働災害の状況

2015年度の当社における労働災害の発生状況は、下記の通りです。2015年度のゴム製品製造業（従業員1,000人以上）の平均度数率0.40に対し、当社の度数率は0.95でした。また強度率は、ゴム製品製造業（従業員1,000人以上）の平均強度率0.03に対し、0.02でした。

●度数率・不労災害度数率・強度率(単体)



※1 度数率 = 労働災害死傷者数 ÷ 延べ実労働時間数 × 1,000,000
 ※2 不労災害度数率 = 不労災害者数 ÷ 延べ実労働時間数 × 1,000,000
 ※3 強度率 = 延べ労働損失日数 ÷ 延べ実労働時間数 × 1,000

安全意識の啓発

当社では、安全への意識高揚のため、年間行事として年2回の安全祈願（年初と全国安全週間初日）を実施し、年間を通じて各種無災害運動（全国安全週間、年末年始、期末）、交通安全運動を実施しています。2015年度は足利・彦根警察署の協力により交通安全講話を実施しました。また社員が各自記入した「安全の誓い」を各職場に年初から掲示し、社員への安全意識の啓蒙を図っています。



出勤時の交通指導(足利工場)

健康管理

当社では、定期健康診断および特殊健康診断などを実施し、結果に応じて産業医などによる事後対応の指導を実施しています。健康診断結果以外にも社員の心と身体の悩みに対して、産業医・看護師によるメンタルヘルスケア、健康相談・指導を実施しています。また、THP（トータル・ヘルスプロモーション・プラン）推進活動として、各種健康増進イベントへの参加を促進しています。



健康づくり講演会(足利市)



メンタルヘルス研修(東京本社)



健康づくり実践教室(足利市)

防火・防災の考え方とマネジメントシステム

アキレスグループ防火・防災基本方針

防火・防災は企業の基本管理項目であり、火災発生や地震に代表される自然災害を被ると、それまでの状況が一変して会社存亡の危機に直面することがあります。また、地域住民に多大な迷惑をかけ社会公共の福祉の増進にも反します。

アキレスでは、日頃から緊急事態に備え、身体及び財産を保護する予防措置を講じ、災害発生を未然に防止すると共に、万一発生した場合の人的・物的被害を最小限に抑えることに努めています。

総合防火・防災訓練

当社では、各地区で防火・防災委員会を設け、各事業場においては、防火・防災意識の啓発・高揚および防火活動に関する技術の習得を目的とした、総合防火・防災訓練を毎年定期的に行っています（製造部門社内火災予防運動は年3回実施、本社工関西支社防災訓練は年1回実施）。

2015年10月には足利第一工場において、足利市消防署との連携で総合防災訓練を実施しました。訓練では、震度6強を想定した、初動対応、通報、避難、安否確認訓練などを実施しました。また足利市消防署レスキュー隊による救助訓練と煙体験訓練を実施しました。



足利第一工場での総合防災訓練

心肺蘇生法講習会

当社では2015年10月に足利地区で、2016年3月に滋賀地区で、各地区の消防署による心肺蘇生法（人工呼吸、心臓マッサージ、AED機器の取扱訓練）の講習会を行いました。

食料など備品の備蓄

当社の各事業場では、震災などの有事に備えた食料などの備品を備蓄しています。

お客様と共に

基本的な考え方

当社は「社会との共生」＝「顧客起点」の企業理念のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献することを目指しています。またお客様の顕在的・潜在的ニーズを把握するため、お客様との対話の機会を大切に考えています。その役割を担う窓口の一つとして「お客様相談室」を設けています。

お客様相談室では2015年度は「お問い合わせ」と「ご意見」を合わせて5,426件のお電話やメールなどをいただきました。貴重な「お客様の声」として全社で共有・活用し、製品・サービスの品質向上に努めています。また一部の企業向け商品については、販売部に直接のお問い合わせをいただく仕組みを設けています。お客様に対応に関する評価をいただく「対応アンケート」も実施し、その結果をもとに、サービス向上につなげています。

対応品質向上への取り組み

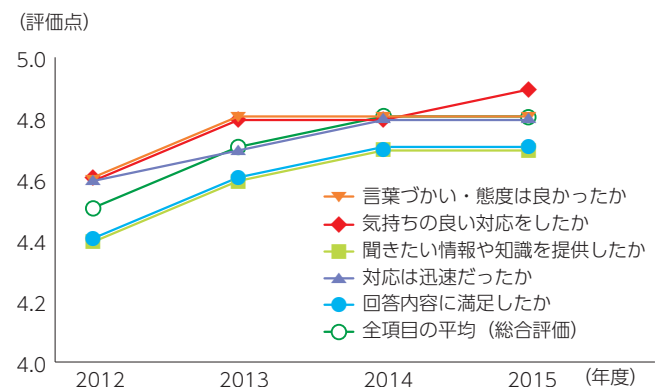
お客様相談室では、対応品質向上に向け、2012年度より、お客様アンケートによる対応品質評価の把握と改善活動を行っています。アンケートでは、①言葉づかいや態度②気持ちの良さ③情報や商品知識の提供④迅速さ⑤満足度の5項目を5段階で評価していただいています。

2012年度の全体の評価点は4.5でしたが、毎月度、担当者別・項目別の点数を確認し合い、お互いに問題点を指摘し合いながら改善を重ねた結果、2015年度の全体の評価点は4.8まで向上しています。

その中には「もし、また何かあっても相談させていただける安心感を得ることができました。」「今までで一番気持ちの良い対応でした。何かあれば電話をすればいいので、これからも安心して瞬足を愛用できます。」といった嬉しいコメントもありました。

お客様がいつでも気軽にご連絡できるお客様相談室であることを目標として、今後も対応品質の向上に努めます。

●お客様アンケートによる対応品質評価の推移



お客様の声のフィードバック

お客様アンケートと並行して、「瞬足」アンケートも実施しており、頂戴したアンケートは、お電話やメールでのご要望とともに、毎月度、関係部署にフィードバックし、品質向上や製品開発に生かしています。

その事例の一つとして、瞬足レモンパイや瞬足足育シリーズに対して、下記の声が多く寄せられました。

「瞬足」はもともと「速く走る」がコンセプトの商品のため、スポーティーなタイプが多かったのですが、「『シンプル』『シック』『お洒落な』『ナチュラル』『大人っぽい』商品が欲しい」との声が多く集まり、商品開発のヒントになりました。



瞬足足育C-211

瞬足レモンパイ315

瞬足足育C-206

お客様とのコミュニケーション強化

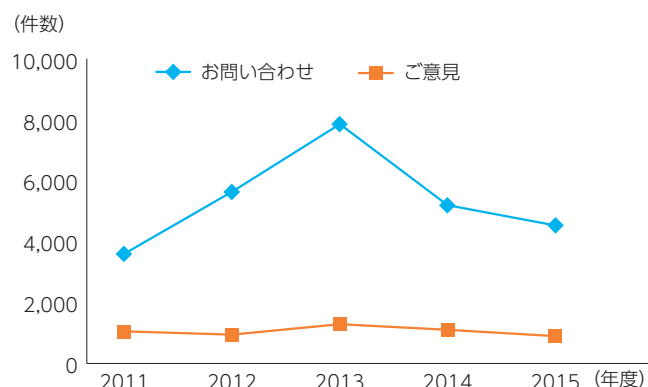
お客様との距離を近くし、接点を増やすための取り組みも進めています。2015年度より全面的なフリーコール化を実施しました。

また、シューズのお問い合わせが多いことをふまえ、「シューフィッター」(足と靴の専門資格)の取得を進め、2015年度より、お客様相談室の従業員4人全員が「シューフィッター」となり、その知識を活用しながら、単なるクレームやお問い合わせ対応だけでなく、靴に関連するお客様からのさまざまなお悩みなどへの相談にもあたっています。シューフィッターとしての対応は、他社との大きな差別化にもつながっています。

そして、以前から実施している「足育相談室」としての活動も、さらに活発化させています。当社ショールームに来社いただいて「足型測定とカウンセリング」を行うサービスと、小学校などに出向いての足と靴に関する「出前講座」も、引き続き好評をいただいています。

これからも、さまざまな方法で、お客様とのコミュニケーションを深めていきます。

●お客様相談室に寄せられるお問い合わせとご意見の件数推移



株主様と共に

基本的な考え方

当社は、企業価値の向上に努め、存在意義を示し、株主・投資家の皆様のご期待に応える会社を目指しています。株主・投資家の皆様に対しては、法令を遵守した方法で、タイムリーに、公正で正確な情報を分かりやすく開示することに努めています。そして、情報開示を含むIR活動を通して、株主・投資家の皆様との対話を行っています。

報告書・中間報告書

当社ではホームページでの情報開示と併せて、事業概要を分かりやすくとりまとめた報告書を株主の皆様へ半年ごとに年2回お送りしています。報告書では、アキレスの代表取締役社長からの事業環境および業績概要の説明に加え、連結財務諸表、各事業部門の業績・新商品情報、ならびにアキレスグループのトピックスなどをご案内しています。



株主の皆様への報告書

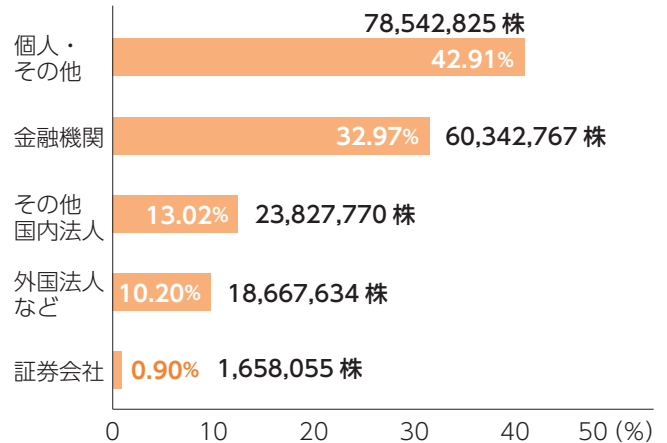
また当社では、毎年6月に定時株主総会を開催し、株主の皆様と直接対話を行っています。株主総会終了後には、新商品・新技術をご紹介し、株主の皆様から直接ご意見をうかがう機会を設けています。

株式の状況

●株式の総数など ※2016年3月31日現在

発行可能株式総数	700,000,000 株
発行済み株式の総数	183,627,147 株
株主数	16,539 名

●株式分布状況 ※2016年3月31日現在



※上記のほか、当社保有の自己株式588,096株があります
 ※2016年10月1日より単元株式数を1,000株から100株に変更予定です

取引先様と共に

基本的な考え方

経済のグローバル化に伴い、資源乱開発による環境破壊や人権侵害などの社会的問題が世界共通の課題となっています。アキレスグループは「企業行動憲章」に従い、法令遵守はもとより倫理的な行動に努め、公正かつ自由な取引を通じてお取引先様と「Win-

Winの関係」を目指しています。また「アキレス調達基本方針」を定め、各取引先様に対しても、法令遵守ならびに人権尊重などへの取り組みを広めています。

アキレス調達基本方針

【基本方針】

1. 公正・透明な取引
2. 企業倫理および関連法令の遵守
3. 環境への配慮、保安防災への取り組み
4. 人権尊重、児童労働・強制労働の禁止、労働・安全衛生の配慮
5. 製品・サービスの安全性・品質の確保
6. 個人情報・製品情報を含む情報セキュリティの維持・推進
7. お取引先様との共存共栄
8. お取引先様の知的財産・資産等の適正管理
9. 紛争鉱物*問題への対応

【お取引先様の選定方針】

- お取引先様の評価・選定の基本方針は以下の通りです。
- (1) 経営状態が健全であること。
 - (2) 安定供給力と生産変動への柔軟な対応力があること。
 - (3) 左記基本方針を含め社会的要請に配慮する取り組みを行っていること。
 - (4) 価格・品質・納期・技術力・サービスのレベルが適正であること。

*その採掘や取引が武装集団の資金源となり紛争を助長、あるいは人権侵害、労働問題などに密接に関連している鉱物。2010年7月に米国で成立した「金融規制改革法」において、コンゴ民主共和国および隣国において産出される鉱物のうち、タンタル、錫、金、タングステン、そのほか国務省が判断する鉱物が紛争鉱物とされた。また米国上場企業に対し、紛争鉱物を使用する場合は米国証券取引委員会（SEC）に報告することが義務づけられた。

CSR 調達の取り組み

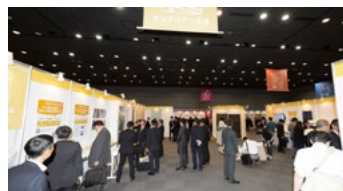
当社では年に1回、取引先審査を実施して調達基本方針の遵守のチェックを行っています。また2015年度には取引先を集め「調達方針説明会」を開催し、アキレス調達基本方針の趣旨、内容を説明し、CSR活動への取り組みの重要性と積極的な推進を要請しました。



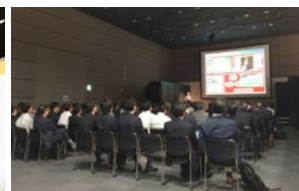
調達方針説明会
(東京本社)

取引先様との対話

当社では、2014年に引き続き2015年も10月に「Achilles THE NEXT」を開催しました。会場では当社の製品や技術を広くご紹介し、ご来場者様からは貴重なご意見をいただきました。頂戴したご意見から新たなビジネスが生まれ始めています。総来場社数は835社でした(お得意先様494社、仕入先様238社、その他103社)。



会場風景



プレゼンテーション風景

従業員と共に

基本的な考え方

アキレスグループは従業員を重要なステークホルダーと位置づけています。「アキレス企業行動憲章」で「従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい健康的な職場環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現します」と定め、その実践として必要な制度や活動内容を決定し推進しています。その根幹にある考え方は、従業員との「共存共栄」です。

人権尊重・公平

アキレスグループは、法のもとでの雇用関係を遵守し、違法労働や児童労働、性的差別、人種差別、宗教的差別などの人権侵害を行いません。またこれらの行為に加担しません。「アキレス行動指針」において、人権尊重を含む倫理的行動および遵法をグループの全従業員が誓約しています。

アキレスグループでは、全ての従業員に対し公平・均等に機会を与えるように努めています。パワーハラスメント・セクシャルハラスメントを禁止し、社内外に相談窓口を設けています。

雇用機会

アキレスグループでは、安定した雇用の維持と雇用機会の拡大を図るため、計画的な雇用にも努め、均等な雇用機会を提供しています。

●従業員数(国内グループ会社) ※2016年3月31日現在

男性 1,259人	女性 253人	合計 1,512人
-----------	---------	-----------

●従業員基本データ(単体) ※2016年3月31日現在

平均年齢	男性 41.9歳	女性 44.5歳	全体 42.3歳
勤続年数	男性 20.0年	女性 23.5年	全体 20.5年
平均年収	約 566万円		

●人材(単体) ※2016年3月31日現在

役員 (執行役員を含む)	男性 19人	女性 1人	合計 20人
部長職	男性 48人	女性 0人	合計 48人
課長職	男性 204人	女性 4人	合計 208人

●定年退職者再雇用制度(単体) ※2016年3月31日現在

2015年度制度利用者	140人
-------------	------

個人情報保護

アキレスグループでは、個人情報管理規定を設け、そのうち「従業員の個人情報管理」に関する部分を独立した条文として、従業員の個人情報を保護・管理しています。また「従業員の個人情報」については、社内システム上で複数階層のセキュリティを設定し、アクセス可能な人員を限定しています。

福利厚生

当社では、各地の事業場所在地において、独身寮、社宅などの施設および、社員持株制度などによる社員生活安定の支援を行っています。また少子高齢化社会における仕事と家庭の両立支援策として、育児・介護休業制度などを設けています。

●育児休業制度(単体)

2015年度制度利用者	男性 1人	女性 11人	合計 12人
-------------	-------	--------	--------

●介護休業制度(単体)

2015年度制度利用者	0人
-------------	----

●年間平均総実労働時間(単体)

2015年度実績	1,959.3時間
----------	-----------

●平均有給休暇取得日数(単体)

2015年度実績	9.1日 (48.9%)
----------	--------------

労働組合

労使関係

当社には、アキレス労働組合とアキレス本社労働組合の2つの労組があります。共に労使の相互信頼をベースに、会社方針に則り会社発展に貢献することで、従業員の生活維持・向上につなげていくとの基本方針のもと、充実した労使のコミュニケーションを図り、労使協調した取り組みを進めています。

アキレス労働組合には、製造部門で働く、役員、管理職を除く従業員835人*が加入しています。また、アキレス本社労働組合には、営業部門で働く、役員、管理職を除く従業員219人*が加入しています。

*2016年7月1日時点の加入員数

労働組合との協議状況

当社では、年2回の給与および賞与の協議と関連し、年3回の運営協議会(5月、9月、11月)を定例的に開催しているほか、人事諸制度の変更や福利厚生に関する内容など労働条件に関する変更や新設などは、労使で協議し、合意の上で実施しております。また、安全衛生、環境、資格制度、再雇用など、労使双方による委員会での検討し、公平かつ適正な運用を図っています。

【主な労使協議】

運営協議会 (年3回)

本部労使協議(原則月1回とし、都度実施)

支部労使協議(原則月1回とし、都度実施)

支部協議(都度実施)

労使共催行事

当社では、健康増進・コミュニケーション向上などを目的とした労使共催の行事により、労使間の交流を図っています。新入社員を迎えるソフトボール大会・ボウリング大会は定例行事となり、所属部署の枠を超えて従業員同士の親睦を深めるコミュニケーションの場となっています。



新入社員歓迎ボウリング大会(東京本社)



ゴルフ教室(足利地区)



アキレスウォーク(足利地区)



木曾路馬籠宿ウォークラリー(滋賀地区)



赤い羽根共同募金活動(足利地区)

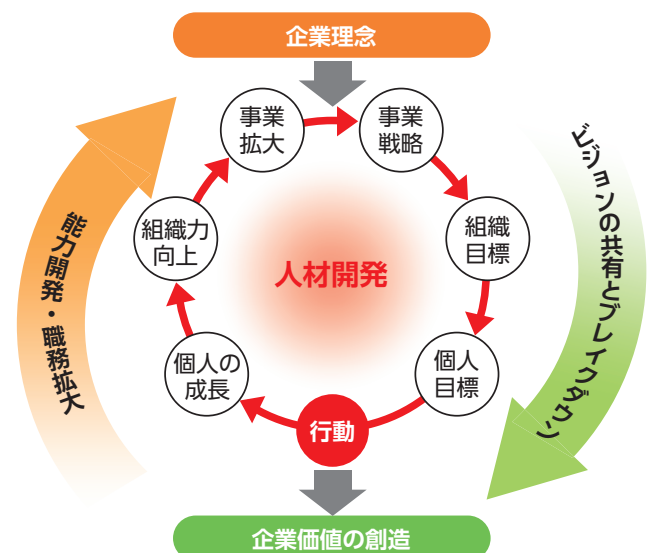
芸術展(足利地区)

人材開発

変化の激しい社会環境の中で生き残っていくためには、社員一人ひとりの人間力の向上を図り、企業価値を次々と創造し続ける集団になることが必要です。そのために、当社では人材開発を積極的に推進しています。「人」という経営資源のパフォーマンスを向上させるとともに、一人ひとりの成果を組織成果に結び付けることで組織全体を活性化し、社員がその能力を存分に発揮しながら生き生きと働ける環境を創り出しています。アキレスグループは、社員一人ひとりの人間力の育成とそれを生かせる組織づくりに取り組んでいます。

人材開発基本方針

1. 明確なビジョンを描き、その達成のために適切なリーダーシップを発揮できる人材を育成する。
2. リーダーの描くビジョンを実現するため自ら問題を発掘してその解決を図り、仕事の付加価値を高めることのできる人材を育成する。



人材開発体系

当社の人材開発は「人材開発基本方針」のもと、社会に必要とされる企業であり続けるために、企業価値の持続的向上に資する幅広い知識・経験と複数の専門性を兼ね備えたリーダーの育成を目指しています。

OJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング=業務内指導)

当社の人材開発の基本はOJTです。上司と連携して業務目標を決め、課題達成にチャレンジし、適時にレビューを行います。コミュニケーションを通して気付きを促し視座を高めていきます。

Off-JT(オフ・ザ・ジョブ・トレーニング=集合研修)

当社では、各自の役割に応じて求められるスキルや専門知識の習得は、集合研修で支援しています。



グローバル研修風景(東京本社)

管理職研修風景(足利工場)

SD(セルフディベロップメント=自己啓発)

当社では、社員の能力向上意欲に敬意を表し、補助金支給制度を設けて通信研修を奨励しています。これにより一人ひとりが必要と考える科目を選択し、自分の能力向上につなげています。

●教育研修体系(単体)

	役員	事業部長	部長	課長	各階層	新人
幹部育成						
グローバル						
管理職						
階層別						
コンプライアンス						
専門性						
OJT 支援						
自己啓発						

●2015年度の主な集合研修

研修区分	研修数	参加者数
幹部育成研修	4回	79人
グローバル研修	3回	172人
管理職研修	9回	387人
階層別研修 (うち、新人研修)	19回 (3回)	514人 (55人)
コンプライアンス研修	4回	3,608人
専門性向上研修	44回	727人

※コンプライアンス研修はアキレス国内グループ全従業員の実績です。ほかの研修はアキレス(株)の従業員の実績です。なお参加者数は、研修区分内の各研修テーマに参加した従業員数の合計数です

地域社会と共に

事業を通じた地域社会との関わり

当社では、雇用を通じた人材の育成や物品の現地調達の推進など、事業活動を通して地域社会の発展に貢献しています。

新たに事業を開発する地域では、事前の調査やコミュニケーション、情報開示を重視しています。2016年1月より、山形アキレスエアロン(株)が山形県金山町で、操業を開始しました。地域の伝統的な金山杉を外壁の一部に生かした金山町こだわりの建屋を拠点にウレタンフォームの加工を行っています。



山形アキレスエアロン

また地元の大学や研究機関との連携も、積極的に推進しています。当社米国子会社(Achilles USA, INC.)は、「トビタテ！留学JAPAN」*を利用して米国への留学を決めた山形大学の学生を、インターンシップで受け入れ、「グローバル人材育成」を応援しています。

※文部科学省が2013年10月より開始した留学促進キャンペーン。意欲と能力ある全ての日本の若者が、海外留学に自ら一歩を踏み出す気運を醸成することを目的としている制度

地域社会の一員としての取り組み

アキレスグループは、地域社会の「良き企業市民」としての責任を果たすべく、社会貢献活動に取り組み、豊かで快適な社会づくりに努めることを、企業行動憲章に定めています。当社では拠点をおく地域において、教育機関の見学・研修の受け入れや防災訓練への参加、各種イベントへの協賛など、地域団体と共同で地域活性化に協力しています。

野洲市 平成27年度「ごみゼロ大作戦」美化活動【滋賀県】

毎年、滋賀県野洲市が主催し、琵琶湖岸のあやめ浜、マイアミ浜周辺および湖岸道路周辺の美化活動が行われています。当社では、今回初めて活動に参加しました。



琵琶湖岸の清掃作業

盛岡・北上川ゴムボート川下り大会【岩手県】

2015年7月26日「第39回盛岡・北上川ゴムボート川下り大会」が開催され、2011年8月にスイスのベルンで樹立された完走艇数607艇、完走者数1,214人の記録を大きくこえ、完走艇数814艇、完走者数1,628人での記録樹立で、悲願のギネス世界記録「The largest raft race」奪還を果たすことができ、レースともども、大盛り上がりとなりました。

大会はタイムレースとフリーレースが行われ、ゴムボートを安全かつ効率良く、そして楽しく操船する技術を競い合うと同時に、北上川流域の美しい自然と触れ合いながら地域経済の活性化に役立つイベントとして、当社を含めた多くの個人や団体が支援を行っています。当社は大会ゼッケンのスポンサーを担ったほか、入賞景品の提供や、更衣室用として当社製エアータントを貸し出すことを通じて、本大会をサポートしました。



北上川の美しい自然の中での競技(写真：盛岡市公聴広報課提供)



祝ギネス世界記録「The largest raft race」奪還(写真：株式会社ハイ・ジャンクション提供)

足利花火大会【栃木県】

2015年8月1日に足利商工会議所主催による「第101回足利花火大会」が開催され、アキレスグループも地元企業として協賛しました。同花火大会は1903年に始まった歴史ある大会で、毎年35万人規模の観客でにぎわいます。今回も約2万発が打ち上げられ、花火が夜空を明るく染めるたびに観客から大きな歓声が上がっていました。



当社協賛の花火
(写真：足利商工会議所提供)

足育(そくいく)活動【全国】

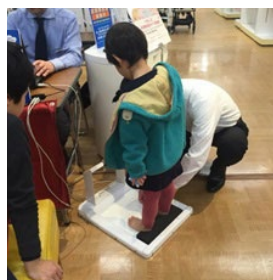
当社では子ども靴を発売することによる社会的責務を強く認識し、発育過程にある子どもの足を守るために「足育宣言」を行っています。当社の子ども靴設計思想と、産学協同プロジェクトパートナーである順天堂大学スポーツ健康科学部バイオメカニクス研究室のさまざまな理論を融合させ、子どもたちの足を守り、育て、子どもたちが楽しく歩き、走ることへの貢献を目指し、普及・啓蒙活動を加速しています。

当社本社ショールームでは、毎週火～金曜日の13:00～17:20に足育相談を実施しています(完全予約制)。また全国各地の大型ショッピングセンター特設会場でも足育活動を実施するほか、ホームページの受付窓口などからの申し込みに応じて小学校などで出前講座を開き、足に合った靴の選び方、正しい靴の履き方などの情報を提供しています。



当社本社ショールームでの足育相談
(東京都新宿区)

杉並区立西田小学校での足育出前講座
(東京都杉並区)



東急百貨店 本店での足育相談
(東京都渋谷区)

マネジメントについて

当社の経営の基本方針は、「『顧客起点』のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する」という企業理念を実践し、持続的に企業価値を高めていくことにあり、株主の皆様をはじめとする全てのステークホルダーに存在意義を示し、お応えしていく会社になることを目指しています。

この経営方針を実現するために、「経営の効率化」「経営の意思決定の迅速化」および「経営の公正性・透明性の確保」と併せて「経営のチェック機能の充実」を重要課題としています。また、経営の公正性と透明性を高めるために、積極的かつ迅速な情報開示に努めるとともに、インターネットを通じて財務情報の提供を行うなど幅広い情報開示にも努めています。

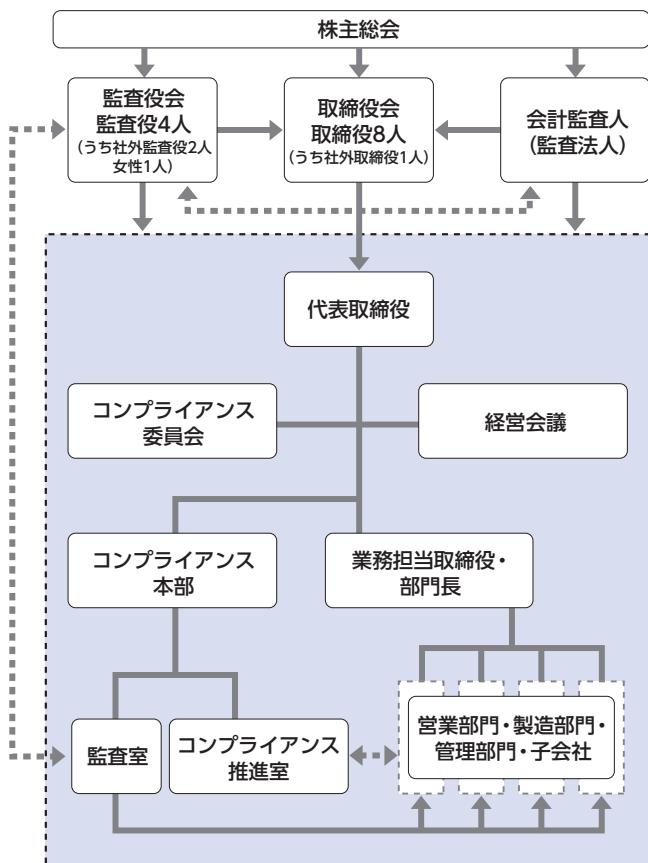
コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンス体制

当社においては、取締役会が業務執行状況を監督し、業務執行については、各部門を担当する取締役もしくは部門長に責任と権限を与え、経営の効率的な運用を図っています。

また1人の社外取締役が客観的・中立的観点から取締役会を通じて経営の監督機能を発揮するとともに、2人の社外監査役（うち1人は女性）が取締役会に出席し、取締役会の意思決定の妥当性・適法性を社外の視点でチェックしており、十分に経営の監視機能を発揮しています。

●コーポレートガバナンス体制図



取締役会

経営の基本方針、法令で定められた事項、そのほか経営に関する重要事項の審議・決定を行うとともに、取締役の業務執行状況の監督を行っています。

経営会議

意思決定の迅速化と業務運営の効率化を図るための取締役会に付議すべき事項の審議、および取締役会の決定方針に基づく具体的な執行方針やそのほか経営に関する重要な業務執行についての審議・決定を行っています。

監査役会・内部監査・会計監査

監査役会は2人の社外監査役を含む4人の監査役で構成されており、各監査役は監査役会が定めた監査の方針・業務分担に従い、取締役会などへの出席、稟議書などの重要な資料の閲覧、子会社を含む事業所に赴くことなどにより、取締役の職務執行について監査しています。

内部監査部門は、監査役との連携を図り、監査役の効果的な監査業務の遂行に協力しています。

会計監査は、有限責任監査法人トーマツを監査人に選任し、監査を受けています。また監査報告会を開催し、監査役会は会計監査人から監査実施状況、監査実施結果などの説明を受けるとともに、会計上と内部統制上の諸問題について助言を得ています。

内部統制システム

当社では、取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制、そのほか株式の業務ならびに当該株式会社および子会社からなる企業集団の業務の適正を確保するための体制について、「内部統制の基本方針」を定めています。この方針に基づき金融商品取引法に定める財務報告に係る内部統制について、当社および連結子会社における整備・運用の評価を行い、その結果を内部統制報告書として公表しています。

コンプライアンス

基本的な考え方

時代の変化に伴い社会的ニーズは変化します。法令や倫理観はその時代の社会的ニーズを映しています。法令を遵守し、倫理的に事業活動を行うことは、企業が社会的責任を果たしていく上での基本的、かつ必須事項です。当社では、法令・定款を遵守し倫理を尊重する企業活動を基本原則として「企業行動憲章」を制定し、さらに具体的な基準として「行動規範」を定めています。役員および嘱託・パートタイマーなどの臨時従業員を含む全ての従業員が、「企業行動憲章」を理解し「行動規範」を守ることが求めています。

企業行動憲章

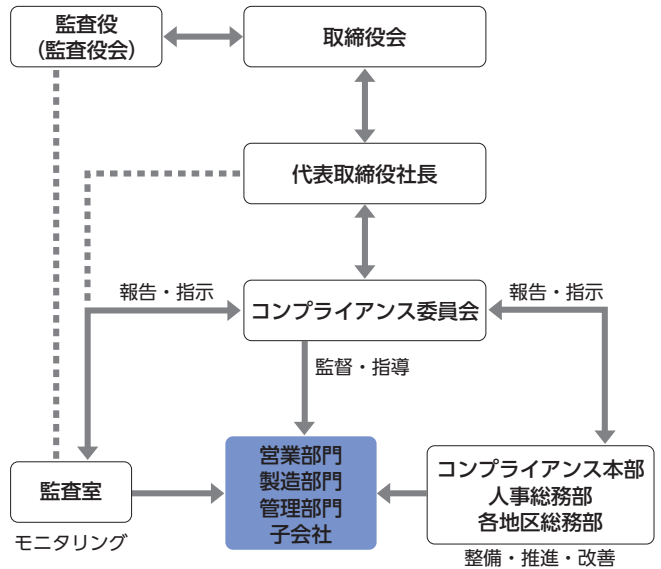
アキレスグループは、新たな価値を創り続けていくことで、豊かで快適な社会づくりに貢献し、高い信頼を得る企業を目指します。アキレスグループは、次の原則に基づき、国の内外において、人権を尊重し、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守しつつ、持続可能な社会の創造に向けて、高い倫理観をもって社会的責任を果たしていきます。

1. 市場・顧客ニーズの的確な把握に努め、安全性・品質・信頼性において優れた製品・サービスを開発・提供し、お客様の真の満足と信頼を獲得します。
2. 公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行います。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保ちます。
3. ステークホルダーはもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示します。また、自社の情報・知的財産・資産の保護・管理を適切に行うとともに、お預かりした個人情報・顧客情報など各種情報の保護・管理を適正に行います。
4. 従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい健康的な職場環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現します。
5. 環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動の必須の要件として、環境負荷の低減に主体的に活動します。
6. 地域社会の「良き企業市民」としての責任を果たすべく、社会貢献活動に取り組み、豊かで快適な社会づくりに努めます。
7. 市民社会の秩序と安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決し、関係遮断を徹底します。
8. 事業活動のグローバル化に対応し、各国・地域の法令の遵守、人権を含む各種の国際規範の尊重はもとより、文化や慣習、ステークホルダーの関心に配慮した事業活動を行います。

アキレスグループの役員は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、その徹底を図ります。また、社内外の声を常時把握し、実効ある社内体制を整備・運用します。

本憲章に反するような事態が発生したときには、経営トップ自らが問題解決にあたる姿勢を内外に明らかにし、原因究明、再発防止に努め、適切に是正措置と処分を行います。

●コンプライアンス体制図



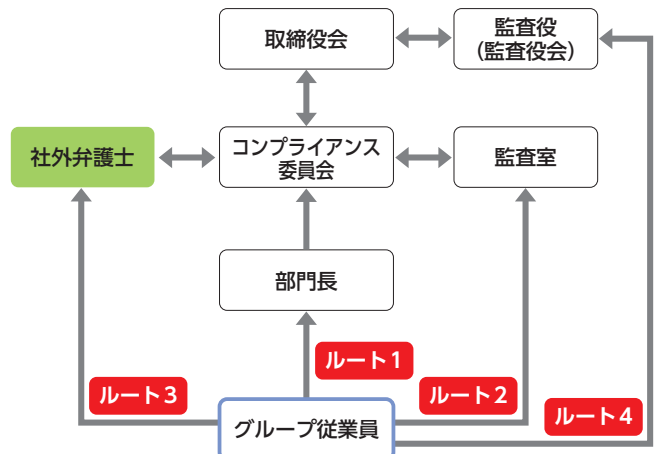
通報・相談制度

アキレスグループは、組織または個人による不正・違法・反倫理行為・アキレス行動指針に反する行為の発生、またはその恐れがあると判断したときに相談、あるいは通報することができる仕組みとしてホットライン（内部通報制度）を整備・運用しています。当社グループの取締役など経営層に関する事項を対象とした監査役直通の窓口を設けるなど受付窓口を複数設置することにより、違法行為などの早期発見と是正を図り、会社のリスクを最小限に抑えるよう努めています。また通報者が不利益な扱いを受けないことを社内規定で担保しています。

ホットライン以外にも、不定期に社内アンケートなどを実施・調査しているほか、「その他相談窓口」を全国4拠点に設け、従業員からの相談を受けています。

ホットライン、その他相談窓口、不定期アンケートにより確認された人権侵害については、定期的に開催しているコンプライアンス委員会にて協議の上、適切な対策を実施しています。

●ホットラインの仕組み



CSRマネジメント

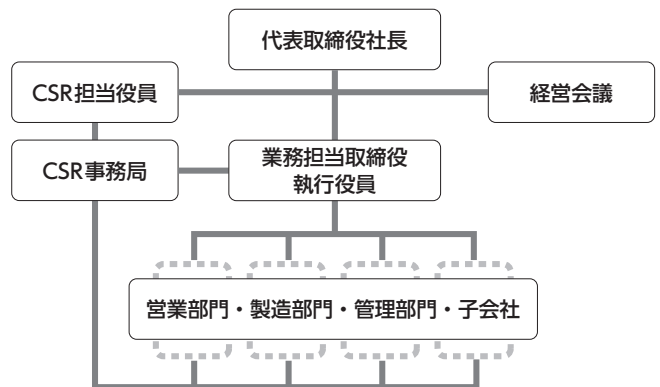
CSRの基本方針

アキレスグループの全従業員は、社会の一員として責任ある行動に努めることを定めた「企業行動憲章」ならびに、あるべき行動の姿を定めた「アキレス行動指針」の遵守を誓い、信頼される製品やサービスの提供に努めています。また環境負荷低減へ

の取り組みを積極的に行い、ステークホルダーとの対話を通じて、社会的課題の解決に役立つ活動の拡大に努め、社会の持続的発展に貢献します。

CSR推進体制

当社は企業理念である「社会との共生」＝「顧客起点」の実践こそが、当社のCSR戦略と位置づけ、CSR推進の責任を担うCSR担当役員を選任しています。CSR担当役員は、業務担当取締役および執行役員が率先して企業理念に資する活動を推進できるよう、サポートしています。またCSR活動の推進および報告書の作成作業を行うCSR事務局は、コンプライアンス推進室と安全環境推進部が担い、報告書は社内審査および承認手続きを経た後、外部公表を行っています。



アキレスのステークホルダー

主なステークホルダー	アキレスグループの主な責任と課題	主な対話および情報開示の機会
お客様	<ul style="list-style-type: none"> ●お客様満足度の向上 ●安心・安全な製品・サービスの提供 ●製品の取扱方法などに関する適切な情報提供 ●お客様への迅速かつ適切な対応 ●お客様(個人)情報の適切な管理 	<ul style="list-style-type: none"> ●日常の営業活動(常時) ●お客様相談室(お電話・メール受付)の設置(営業時間内 常時) ●ホームページ(常時) ●イベント(展示会など)の開催(随時) ●足育相談会
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> ●適時・適切な情報開示 ●企業価値向上 ●議決権行使の尊重(株主総会) ●IR活動 	<ul style="list-style-type: none"> ●ホームページ(常時) ●決算短信の発行(年4回) ●四半期報告書と有価証券報告書の発行(年4回) ●株主様への報告書の発行(年2回) ●定時株主総会の開催(年1回) ●「アキレスのCSR」(CSR報告書)の発行(年1回)
取引先	<ul style="list-style-type: none"> ●公正・公平な取引 ●オープンな取引機会 ●CSR推進への協力要請・支援 ●適切な情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ●日常の調達活動(常時) ●イベント(展示会など)の開催(随時) ●情報交換会(随時)
従業員	<ul style="list-style-type: none"> ●人権の尊重 ●労働安全衛生への配慮 ●ワークライフバランスの促進 ●労使の相互信頼 	<ul style="list-style-type: none"> ●労使協議会(随時) ●トップからのダイレクトコミュニケーション(随時) ●集合研修(随時) ●講演会の開催(随時)
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の文化や慣習の尊重 ●事業場での事故・災害防止 ●地域社会への貢献活動 ●環境負荷低減 ●法令遵守 ●納税 	<ul style="list-style-type: none"> ●工場見学の実施(随時) ●ボランティア参加を含む社会貢献活動の実施(随時) ●地域自治体との交流・意見交換(随時) ●ヒアリング対応・情報提供など(随時) ●産学官での協働などを通じた対話・連携・支援(随時)

アキレスのCSR 2016 詳細版

発行日：2016年9月 発行：アキレス株式会社

お問い合わせ先

【コンプライアンス推進室】

〒169-8885 東京都新宿区北新宿 2-21-1 新宿フロントタワー
TEL:03-5338-8232 FAX:03-5338-8250

【安全環境推進部】

〒326-8511 栃木県足利市借宿町 668
TEL:0284-73-9148 FAX:0284-73-9854